

令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構

第1回 定時社員総会 総会資料

開催日時：令和7年5月27日(火) 18:15 ~ 19:30

開催：Teams (Web 会議システム) による開催

議 事：

1. 開会の辞
2. 代表理事挨拶
3. 出席社員の確認
4. 議 案

第1号議案 令和7年度 運営体制 (案)

第2号議案 令和6年度事業報告及び収支決算報告

第3号議案 令和7年度事業計画及び収支予算 (案)

5. その他
6. 閉会の辞

目 次

■議 案

第 1 号議案 令和 7 年度 運営体制（案）

一般社団法人 延岡こども未来創造機構 運営体制図（案）	1
令和 7 年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構名簿（案）	2
令和 7 年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構運営委員会名簿（案）	3

第 2 号議案 令和 6 年度事業報告及び収支決算報告

事業報告	4
決算報告	
貸借対照表	43
正味財産増減計算書	44
補助事業収支決算書	46
受託事業収支決算書	47
監査報告書	50

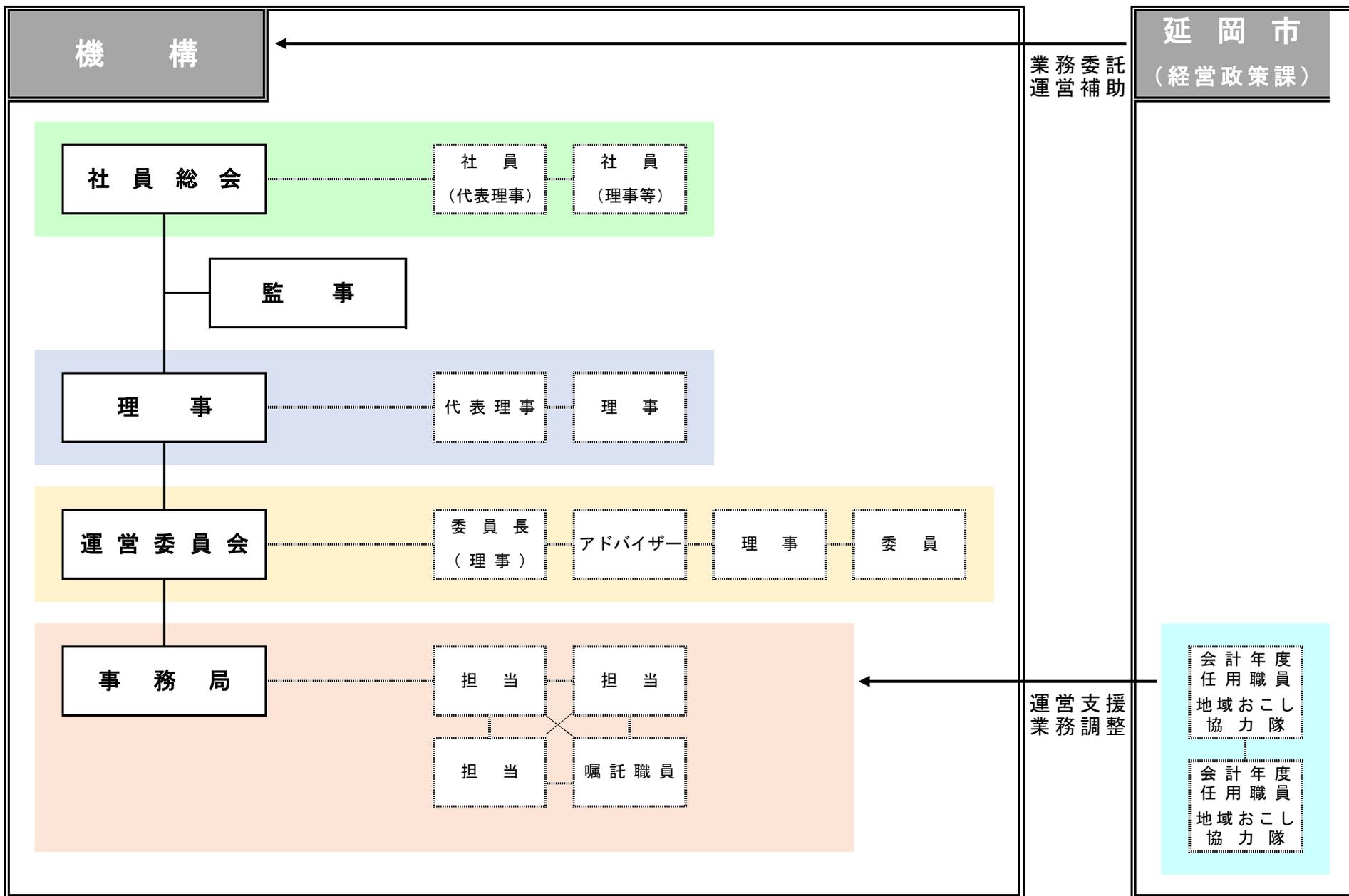
第 3 号議案 令和 7 年度事業計画及び収支予算（案）

令和 7 年度 事業計画（案）	51
令和 7 年度 事業予算（案）（補助事業の部）	54
令和 7 年度 事業予算（案）（受託事業の部）	55

■添付資料

一般社団法人 延岡こども未来創造機構定款	56
--------------------------------	----

令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構 運営体制図



令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構 社員名簿 (案)

役 職	所 属 等	氏 名
社 員	延岡市	読谷山 洋司
社 員	国立大学法人 東京学芸大学	鉄矢 悦朗
社 員	延岡市保育協議会	小川 靖子
社 員	延岡市学校法人立幼稚園協会	田村 智彰
社 員	延岡市キャリア教育支援センター	水永 正憲
社 員	兵庫教育大学	澤野 幸司

令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構 役員名簿 (案)

役 職	所 属 等	氏 名
代 表 理 事	延岡市	読谷山 洋司
理 事	国立大学法人 東京学芸大学	鉄矢 悦朗
理 事	延岡市保育協議会	小川 靖子
理 事	延岡市学校法人立幼稚園協会	田村 智彰
理 事	延岡市キャリア教育支援センター	水永 正憲
理 事	兵庫教育大学	澤野 幸司
監 事	延岡市企画部	吉岡 修

令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構 事務局名簿

役 職	所 属 等	氏 名
担 当	一般社団法人 延岡こども未来創造機構	井狩 詩都香
担 当	一般社団法人 延岡こども未来創造機構	高橋 愛
担 当	一般社団法人 延岡こども未来創造機構	松下 春代
会計年度任用職員 (地域おこし協力隊)	延岡市企画部経営政策課	松本 怜大
会計年度任用職員 (地域おこし協力隊)	延岡市企画部経営政策課	高橋 遼太

令和7年度 一般社団法人 延岡こども未来創造機構 運営委員会名簿（案）

	区 分	所 属 等	氏 名
1	委 員 長	東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 美術講座 環境・プロダクトデザイン研究室 教授	テツ ヤ エツ ロウ 鉄 矢 悦 朗
2	アドバイザー	親子をつなぐ学びのスペースリレイト 代表	ナカギリ マリコ 中 桐 万 里 子
3	アドバイザー	広島県三次市教育委員会 教育部次長 (元島根県海士町 隠岐國学習センター長)	トヨタ ショウゴ 豊 田 庄 吾
4	アドバイザー	株式会社職業能力研究所 代表取締役 リクルートワークス研究所アドバイザー	オオクボ ユキオ 大 久 保 幸 夫
5	アドバイザー	経済産業省 経済産業政策局 企業行動課 課長	ノウムラ コウ キ 能 村 幸 輝
6	アドバイザー	東京学芸大学 教育インキュベーションセンター 教授	カネコ ヨシヒロ 金 子 嘉 宏
7	アドバイザー	国際電気標準会議システム委員会コンビナ(スマートエネルギー開発計画 担当)	ウメジマ マサキ 梅 嶋 真 樹
8	委 員	延岡市教育委員会	クゼ ユミコ 久 世 由 美 子
9	委 員	延岡市学校法人立幼稚園協会	タムラ トモ アキ 田 村 智 彰
10	委 員	延岡市保育協議会	オガワ ヤスコ 小 川 靖 子
11	委 員	延岡市小中学校校長会・教頭会	ニシヤマ シンタロウ 西 山 慎 太 郎
12	委 員	九州医療科学大学	ヨコヤマ ユタカ 横 山 裕
13	委 員	延岡市民生委員児童委員協議会	ツダ サダコ 津 田 貞 子
14	委 員	延岡男星保育士団	クニ トモ ダン 國 友 弾
15	委 員	延岡市キャリア教育支援センター	ミズナガ マサ ノリ 水 永 正 憲
16	委 員	延岡市PTA連絡協議会 (新年度改選予定)	トモ イカリ マサノリ 友 碓 将 徳
17	委 員	兵庫教育大学	サワノ コウジ 澤 野 幸 司
18	委 員	(公 募)	マツダ セイ ラ 松 田 聖 良
19	委 員	(公 募)	サトウ カズテル 佐 藤 一 輝
20	委 員	(公 募)	マツダ トモ コ 松 田 朝 子
21	委 員	(公 募)	オオウエ ネネ 大 上 寧 々

令和 6 年度 事業報告

《補助事業の部》

事務局運営事業 事務局

定時社員総会、運営委員会、アドバイザー会議を行った。

- ・定時社員総会…令和 6 年 5 月 21 日(火)
- ・運営委員会…令和 6 年 6 月 17 日(月)
- ・アドバイザー会…令和 6 年 7 月 22 日(月)



・事業名: STEAM ワークショップゴム動力カー 遊びと学び

・実施概要

日時：①令和 6 年 4 月 13 日(土)、②令和 6 年 4 月 14 日(日)

場所：①ヘルストピア延岡 1 階キッズスペース、②エンクロス 2 階学習スペース

対象者：延岡市に在住または在籍している小学生とその保護者

参加料：500 円/組

・実施実績

13 日 11 組 20 名 / 14 日 6 組 14 名

・記録写真



・目的

これまで、関係団体等と連携して実施してきた事業の経験を活かし、家庭でも楽しめる身近なSTEAMを実感してもらう。STEAM活動に参加できる機会を提供し、ブロックでのものづくりを通じて、試行錯誤する力や、自分の設定した目標や課題を解決する力を育む。

・内容

STEAM教育の視点を取り入れた、ゴム動力カーのワークショップを行った。また、後半には保護者に向けてSTEAM教育の説明も実施した。STEAMの考え方やワークショップ中の子どもへのかかわり方への理解も促した。

・成果

参加者は、自らの思いを実現しようと、夢中になって試行錯誤する様子が見られ、STEAM教育の本質を実践していた。保護者の方もお子さまの思いに寄り添いながら見守り、共に考えながら試行錯誤をサポートしており、「子どもと工夫して何かを作るというイベントは良いと思いました」「子どもの成長を感じられる良い機会でした」というお声もいただいた。後半に保護者に向けてSTEAM教育の説明も実施したことで、STEAM教育を知っていただく機会にもなったと考える。

・事業名:「ニョキニョキ新聞紙」の演習を通じて、**共育***を考える **遊びと学び** **共育**

(※)一方的に知識を教えるのではなく、大人や異年齢の子どもたちが互いに学び合い、成長すること

・実施概要

日時: 令和6年6月17日(月)

場所: 九州医療科学大学 体育館および講義室

対象者: 九州医療科学大学学生

・実施実績

学生13名、教員1名

・記録写真



第 2 号議案

・目的

共育のコンテンツとして「新聞紙の構造体」、レジリエンス力の育成コンテンツとして「ニョキニョキ新聞紙」の 2 つを開発・普及する鉄矢悦朗教授(東京学芸大学)の実践を体験し、共育感覚やレジリエンス力を実感し、教育を学ぶ大学生の今後の教育哲学に活かすことを目的とする。

・内容

前半は、体育館にて「ニョキニョキ新聞紙」ワークショップを体験し、後半は鉄矢悦朗教授による特別講義を実施。

・成果

前半のニョキニョキ新聞紙ワークショップでは、チームに分かれて協力しながら作業する様子が見られ、実際に新聞紙を伸ばし始めると、「ちょっと右に傾いているよ！」など、声を掛け合いながらチームで力を合わせて取り組んでいた。伸ばすコツをつかみ始めると、脚立を利用してより高く伸ばそうとするなど、試行錯誤していた。

午後は、デザインの話を中心に、教育や共育についての講義を行った。学生は真剣に話に参加している様子で、最後は今日のワークショップや講義を通して感じたことを発表・共有した。普段の大学の講義とは違った学びや他の学生の意見を聞く貴重な機会となり、今後のキャリアを考えるきっかけにもなったのではないかと考える。

・事業名: 講演会『今を生きる子どもたちの 自己肯定感を育むために～二宮金次郎流人づくりの秘訣～』 共育

・実施概要

日時：令和 6 年 6 月 22 日(土)

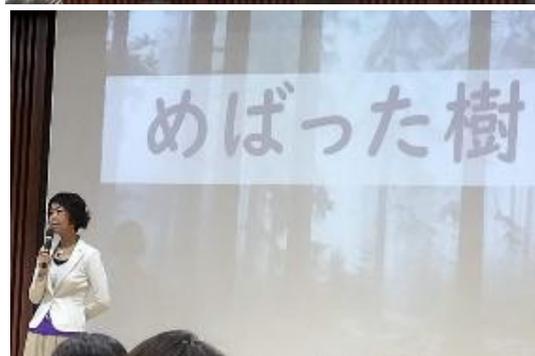
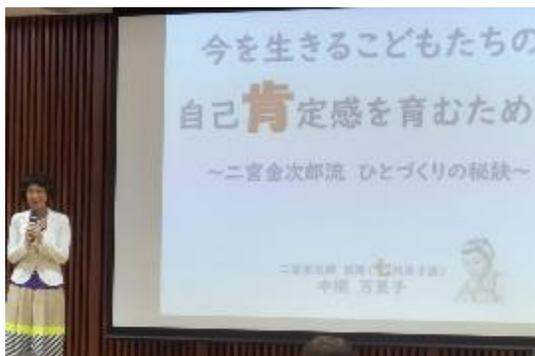
場所：延岡市役所 講堂

対象者：どなたでも参加可

・実施実績

参加者数：64 名

・記録写真



第 2 号議案

・目的

子どもの自己肯定感を育む方法や、たくましく生きるための知恵を共有し、子育てのヒントを得る。当機構の存在や取組みを市内外の多くの人を知っていただくきっかけを作る。

・内容

講師に、二宮金次郎の 7 代目子孫で、「親子をつなぐ学びのスペースリレート」代表の中桐万里子氏を招き、二宮金次郎の生涯や思想を通じて子どもたちの自己肯定感を育むための講演会を開催した。

・成果

講演では、二宮金次郎の生涯と照らし合わせながら、たくさんの困難や失敗の中、二宮金次郎がどのような環境の中でどのような力を身につけていったかを紐解き、現代の子どもたちがたくましく生きゆくために大切なことをお話いただいた。

参加者からは、「誰しも生きているだけで、どれだけ多くの愛情を受けてきたかということに改めて感じました」や、「木の根っこの話が特に印象に残りました。子どもが困っているときにこそ、関わりをより深めようと思います」などの感想が寄せられ、多くの気づきやこれからの生き方へのヒントを得られたのではないかと考える。

・事業名: リスクマネジメント講習 体験

・実施概要

日時：令和 6 年 7 月 4 日(木)

場所：上祝子(祝子川キャンプ場)

対象者：延岡市役所職員、延岡こども未来創造機構職員

・実施実績

参加者数：5 名

・記録写真





・目的

特に野外での事業を企画する立場でのリスクマネジメントの考え方、実際の活動中に起こりうる危険に対する対応の仕方、自然体験だけではなく他の事業へも活かせるよう知識を習得する事を目的とする。

・内容

NPO 法人ひむか感動体験ワールド成崎 聡氏を講師とした、野外活動におけるリスクマネジメント講習を実施した。自然体験を行う上でのリスクマネジメントの考え方、フィールドにおいて起こりうるリスクなど、実際の活動で役立つロープワークなども交えながら講習を行った。

・成果

実際に参加者へ話をするときの注意点や注意事項を伝えるときのポイントなどを学ぶことができた。フィールドワーク内での危険に関しては、毒をもつ植物等の説明もあり、新たに知識を習得する事ができ、自然体験だけではなく English Camp や延岡高校の SSH 等にも役立てていけると考える。

・事業名:地域人材育成講座(部活動指導員養成) ブカツゼミ 共育

・実施概要

日時：受講期間 令和6年6月21日(水)～
令和6年8月20日(火)

場所：オンデマンド講座

対象者：地域で児童・生徒を対象としてスポーツなどを
教えたいと思っている方

・実施実績

参加者数：2名

・記録写真



第 2 号議案

・目的

部活動の指導者が学校ではなく地域へ移行される傾向がある中で、現状を知るとともに、部活動指導員として活動するための基本知識の習得を目的とする。

・内容

平成 30 年～令和 2 年度文科省委託事業として学校法人三幸学園東京リゾート&スポーツ専門学校が実施した「リカレント教育総合推進プロジェクト部活動指導員養成事業」によって作成された e ラーニングプログラムを実施した。

・成果

全参加者が既定の講座を修了することができた。講座を受講することで、部活動指導員として学校等で活動するための基本知識の習得が出来たと思われる。

受講期間終了後に実施したアンケート調査によると、受講したきっかけは、「子どもがスポーツ少年団に入っており、時々指導することがあるため受講した」との事であった。今年度から、より理解を深めるために導入された確認テストに関しては、やや難易度が高かったようだが、「現在の子どもたちを取り巻くスポーツ環境について、よく分かった。自分が学生の頃とは変わっている部分が多い」との意見をいただき、現状について理解を深めた様子だった。これから児童・生徒を指導する際に役立つのではないかと考える。

・事業名：地域人材育成講座(地域子ども支援人材養成講座) 共育

東京学芸大子ども未来研究所 × 延岡子ども未来創造機構 × 延岡市

「子どもパートナー」認証対象講座、「子どもサポーター(STEAM インストラクター)」認証対象講座

・実施概要

子どもパートナー

日時：令和 6 年 6 月 1 日(土)～令和 6 年 6 月 30 日(日)

場所：オンデマンド講座

対象者：高校生以上

参加料：無料(ただし、認証申請をする方は 2,000 円実費で負担)

子どもサポーター(STEAM インストラクター)

日時：令和 6 年 7 月 1 日～7 月 30 日、8 月 10 日

参加料：認証申請する方は 4,000 円を実費負担

※ただし、子どもパートナーと子どもサポーター 2 種同時の申請の場合は 2,000 円

受講内容：子どもパートナー講義 + 専門領域講義、実地研修

※今年度は、機構職員 3 名、地域おこし協力隊 1 名

・実施実績

子どもパートナー応募者数：21 名(機構職員 3 名、地域おこし協力隊 1 名含む)

子どもパートナー申請者数：14 名(機構職員 3 名、地域おこし協力隊 1 名含む)

子どもサポーター申請者数：4 名(機構職員 3 名、地域おこし協力隊 1 名)



・記録写真



・目的

教育支援活動を実践している講師から、持続的な教育支援活動を行うために重要な考えや現代に生きる子どもたちの様子などを学び、様々な特性を持った子どもたちの理解を深める事を目的とする。

・内容

現代に生きる子どもたちの様子を知り、様々な特性を持った子どもたちへの理解を深めるとともに、支援者としての役割について学ぶ講座を実施した。

「こどもパートナー」認証対象講座は、ベースとなる4つの領域に加え、3つの特別支援の領域で構成されており、オンデマンドのため、受講者は時間・場所を問わず受講することができる。ベースとなる4領域を期間内に各1回以上受講すると、一般社団法人教育支援人材認証協会の発行する「こどもパートナー」の認証を申請することができる。

今年度は「こどもパートナー」の認証取得に加え、4名が「こどもサポーター(STEAM インストラクター)」の講座も受講し、認証を得た。

・成果

講座の内容に対して「仕事で子どもに関わるだけでなく、自分の子どもに接する際にも参考になる内容だった」とのお声をいただき、普段の仕事や子育てにも活用いただける様子が窺えた。

受講者21名のうち14名が認証申請を行い、「こどもパートナー」認証を得た。

「こどもパートナー」認証を取得した2名が、令和6年11月30日(土)に開催した「ENGLISH DAY CAMP」にスタッフとして参加した。当日は、積極的に子どもたちとコミュニケーションをとっていただき、カレー作りなど手伝っていただいた。

このようなことから、現代における様々な子どもたちの様子を知り、子どもの特性等の知識を習得するとともに、地域の子どもを支援する人材の発掘ができ、活躍の場が提供できたと考える。

第 2 号議案

・事業名:宮崎県立延岡高校 SSH フィールドワーク 体験

・実施概要

日 時 : 令和 6 年 10 月 11 日(金)、令和 6 年 10 月 16 日(水)

場 所 : 鹿川溪谷、島野浦島

対象者: 普通科 1 年生 2 クラス

・実施実績

参加者数: 82 名

・記録写真

●鹿川



●島野浦



・目 的

地域の魅力や課題を発見し、それらを探求する。また、次年度の課題研究のテーマに繋げることを目的とする。

・内 容

延岡高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の授業の一環として1年生次に行われるフィールドワークについて、2クラス分のフィールドワークを実施した。

第 2 号議案

10月11日の鹿川渓谷では、午前中はNPO法人ひむか感動体験ワールド・フォレストマントル上鹿川・山の会の協力のもと、パッケン岩トレッキング班・森林保全班・生活班に分かれて活動し、午後は神楽館で、山の会の方の講話とそれぞれの班で学んだことを共有した。

10月16日の島野浦島では、午前中はNPO法人しまうら未来開発プロジェクトの協力のもと山班・海班・町班に分かれて活動を行った。午後からは、山班・海班が延岡市島野浦開発総合センターで合流。午前中の活動の動画や写真をもとに観光をテーマとしたPR動画の作成・発表を行いお互いの学びを共有した。町班は、島野浦学園にて交流を行い、島野浦学園の生徒は島浦学の発表を、延岡高校の生徒は山班・海班と同じように動画の発表を行った。

・成果

10月11日の鹿川渓谷に参加した生徒たちからは、「鹿が自然を荒らしているという現状に衝撃を受けた」「パッケン岩についての説明や、山の状況など細かく丁寧に教えてもらえてとても分かりやすかった」「トマトを食べさせてもらったことが印象に残った。苦労されていることも踏まえて食べるいつもの倍美味しく感じた」などの感想があった。

10月16日の島野浦島に参加した生徒たちからは、「トンバ山の山頂付近にある防空壕を見せてもらい、説明して頂いて当時の姿がそのまま残っていたことで胸がジーンとしました」「旋網漁の収入についての話が印象に残った」「島野浦学園との交流、島の良さや島ならではの活動内容を知ることができ面白かった」などの感想があった。

令和7年1月24日・31日に延岡高校にて発表会があり、フィールドワークで学んだことを動画にして発表した。発表会当日は、フィールドワークに関わっていただいた講師も参加し、「改めて、森林環境の学習交流会や体験交流を実施することの大切さを感じました。地域で活動していると、当たり前ですが、学生さんはこんなに新鮮に感じて下さる。もっと学びたいという姿勢を感じました」との感想をいただいた。

これらの感想から、生徒、講師、機構職員にとって意義あるものになった。そして、フィールドワークの目的であった次年度に向けての課題研究のテーマを見つけるきっかけとなり、今回の活動を基に研究のテーマを決定し、探究活動を展開していく班が現れてくると、このフィールドワークが機構としてさらに意義のある活動になっていくと考えられる。

・事業名：きらきらスポーツフェスタ 遊びと学び

・実施概要

日時：令和6年10月25日(金) 8:50～12:00

場所：アスリートタウン延岡アリーナ(新宮崎県体育館) サブアリーナ

対象者：延岡市内公立の小中学校で特別支援学級に在籍している児童・生徒

・実施実績

参加者数：約488名(児童・生徒:208名 教員:約80名 保護者:約200名)

・記録写真



・目的

「勝ち負け」や「年齢・性別・障がいの有無」にかかわらず誰もが楽しめる「ゆるスポ」の本質を理解し、戦略を立てて試行錯誤することの面白さや、体を動かすことの楽しさを感じてもらう。

・内容

延岡市学校教育研修所特別支援教育部会主催「きらきらスポーツフェスタ」にて、東京学芸大学鈴木聡研究室の協力のもと「ゆるスポ DeCö」を開催した。昨年も実施した「きび一つす」「ラン Big キューブ」「サバいばる」の 3 種目と、新たに加わった「むちゅう de しゅうかく虫」の全 4 種目を実施。休憩時間には、保護者や教職員の方々に「ゆるスポ DeCö」の競技に参加いただく「大人のゆるスポ DeCö 体験」も実施した。

・成果

昨年度の 146 名を大きく上回る 208 名の児童・生徒に参加いただいた。参加校も昨年度より増えていることから、「ゆるスポ DeCö」を広く認知してもらう機会になっていると考えられる。

競技中は、子どもたちだけでなく、教員や保護者からも大きな声援や歓声が上がリ、「ゆるスポ」の楽しさや意義を体感していただけたと感じる。また、競技が進むにつれ、「次は順番をかえてみよう！」「もっと〇〇したほうがいいのかも！」とチーム内で作戦会議をし、勝利に向けて試行錯誤する様子が見られた。休憩時間に実施した「大人のゆるスポ体験」では、大人が真剣にゆるスポを楽しむ姿に、児童・生徒が声援を送る場面も見られた。

以上のことから、「勝ち負け」や「年齢・性別・障がいの有無」にかかわらず誰もが楽しめる「ゆるスポ」の本質や、戦略を立てて試行錯誤することの面白さ、純粋に体を動かすことの楽しさを感じていただけたと考える。

第 2 号議案

・事業名:Design スクール **遊びと学び**

・実施概要

日 時 : 令和 6 年 10 月 5 日(土)~令和 7 年 3 月 16 日(日)

場 所 : 延岡市コワーキングスペース、延岡こども未来創造機構事務所

対象者: 延岡市に在籍または在住する中・高校生

・実施実績

参加者数 : 8 名(論理コミュニケーション(令和 6 年 7 月 20 日(土)~
令和 6 年 9 月 28 日(土))からの継続参加 3 名含む)

・記録写真



・目 的

「論理コミュニケーション」を発展させた学びで、利用者の視点に立った本質的な問題解決の思考法である「デザイン思考」の理解を目的とする。

・内 容

建物や服のデザインを行う時のプロセスを、ビジネスの課題解決のために活用する考え方(デザインシンキング)を学ぶ講座を、慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボ、東京学芸大学インキュベーションセンターの協力のもと開催した。

・成 果

初回は、慶應義塾大学 SFC 研究所の梅嶋真樹特任教授(当時)により、株式会社インテックが提供しているスマートホームアプリを教材としたデザイン思考の実践講座が開催された。

参加者は、スマートフォンを使ってアプリを操作し、延岡から東京のキャンパスにある照明器具やエアコンを ON、OFF にする遠隔制御を体験した。タップ後の反応速度を上げていくことを長年の課題として取り組んでいたという制作現場の様子なども伺うことができた。

意見交換会では、参加者から「地球の裏からでも制御可能ですか?」や「もっと社会に広めることが必要」など鋭い視点の質問や率直な意見がいくつもあった。それに対しインテックからは新たな課題や実情を交えながら回答があり、とても充実した時間となった。周りができないと思っていることでも、できる可能性は無限にあるというメッセージを伝えていただいた。

第 2 号議案

引き続き参加者は同研究所の井上孝志上席所員のもと、論理コミュニケーションで用いる設計図を、防災をテーマに完成させていった。自分の意見の根拠となる文献を検索し、黙々と取り組む参加者もいれば、自ら講師へ質問する参加者もあり、積極的に取り組んでいた。

最終日には、延岡市長、危機管理課長、学校教育課長との意見交換が行われた。参加者は、避難所を楽しい場所にするためのアイデアや、避難所について楽しみながら学ぶ機会の創出について、調べた文献を根拠として自身の書き上げた設計図を発表した。市長からも、「思いつきではなく根拠があり、皆さんの意見は説得力がある。早速実行に移していきたい」とのコメントが得られた。関係課長からも、「楽しみながら学びたいという気持ちを感じた」「1人1人が自分事として捉えていた」とのコメントを得られた。講師からは、「今回のように、関連する文献を沢山読むことが大事。もっと大きなことをするときも、沢山のことを観察する必要がある。そうして世界にも自分の意見を発信することができる。自分のやりたいことを一緒にやってくれる人は必ず現れる」とエールが贈られた。初めは大変緊張していた参加者だったが、終了後は安堵の表情を浮かべると同時に、達成感を得た様子だった。「学校の授業で実践した時よりも圧倒的に書けるようになっていた」とのコメントもあり、この講座の効果を実感した。

・事業名：ニョキニョキ新聞紙ワークショップ 遊びと学び

・実施概要

日 時： ① 令和 6 年 9 月 13 日(金)

② 令和 7 年 1 月 30 日(木)

③ 令和 7 年 1 月 31 日(金)

場 所： ① 岡富小学校 図工室

② 岡富小学校 体育館

③ 旭小学校 体育館

対象者： ① 岡富小学校 2 年生

② 岡富小学校 5 年生

③ 旭小学校 4 年生

・実施実績

① 児童 73 名、教員 5 名

② 児童 70 名、教員 6 名

③ 児童 68 名、教員 4 名

・記録写真





・目的

新聞紙など身近なものを使ったワークショップを実施し、「遊びは最高の学び」を体感する。失敗を繰り返しながら、課題解決に向けた試行錯誤を楽しむ。

・内容

4 人一組のグループに分かれ、新聞紙の短編をテープで止めて 10 枚ほどつなげ、円筒状に丸めた中心から新聞紙を取り出し、タケノコのように伸ばしていくワークショップを実施。

・成果

新聞紙をつなげる作業では、チーム内で「テープを切る」「新聞紙をつなげる」「新聞紙を丸める」など役割分担をしながら、協力して新聞紙をつなげていた。

新聞紙を伸ばし始めると、「天井まで到達させよう！」「隣のチームより高く伸ばそう！」など目標を決めて、新聞紙の伸ばし方や巻き方などを何度も試行錯誤する姿が見られた。新聞紙が高く伸びると、あちこちから大きな歓声上がり、階段などを利用してさらに高く伸ばそうと工夫するチームもあった。新聞紙という身近な道具を起点に、様々な「遊び」や「学び」が生まれている様子であった。

・事業名：旭化成コラボ 水力発電キットを使ったワークショップ

(※機構は、旭化成ひむか文化財団の協力として参加)

・実施概要

日時：令和 6 年 12 月 14 日(土)

場所：延岡駅西口街区ビル

対象者：延岡市少年少女発明クラブの登録者のうち参加希望者

・実施実績

参加者数：17 名

・記録写真





・目的

水力発電の仕組みを理解するとともに、ものづくりを通して、「目標を達成する力」や「他者と協働する力」といった非認知能力を培う事を目的とする。

・内容

旭化成ひむか文化財団が事務局として運営している「延岡市少年少女発明クラブ」と、野口遵顕彰会との共催事業に機構が協力した。

はじめに、野口遵顕彰会より、水力発電の仕組みや発電所で作られた電気が実際に旭化成の工場で使われていることについてお話いただいた。その後、水力発電キットを使ったワークショップを行った。

・成果

ワークショップが始まると、子どもたちは待ちきれない様子で部品を取り出し、ペア同士で協力しながらキットを組み立てていた。ペア同士が同じ目的意識を持ち、コミュニケーションをとりながら共に試行錯誤する姿は印象的で、水力発電の仕組みを学ぶことはもちろんのこと、「目標を達成する力」や「他者と協働する力」といった非認知能力を培う機会になった。

また、途中で組み立てに苦戦する場面も見られたが、「壁をどう乗り越えるか」という点ではこれも大切な学びであり、「一人でできなかつたら終わり」ではなく、「大人に聞いてみる」、「友達に相談してみる」など、他の選択肢があるという気付きにもつながり、子どもたちにとってまさに「生きる力」を体感する機会となった。

・事業名：国際理解教育のための講演会及びワークショップ

・実施概要

日時：令和7年2月15日(土)～2月16日(日)

場所：野口遵記念館

対象者：不問

・実施実績

講演会 参加者数：180名

ワークショップ参加者数：2日間で42名(親子)



・記録写真



・目的

世界で起きている問題を当事者として考え、世界で起きている命の危機について知り、その命を支える国境なき医師団の人道援助活動について理解を深めることを目的とする。

・内容

「国境なき医師団」の協力のもと、国際問題を理解するための教育の講演会と、子どもたちが国際的な視点を持ち、世界で起きている問題を当事者として考えることを目的とするワークショップを開催した。

・成果

講演会では、「国境なき医師団」の外科医である間瀬 健次 医師が、「答えは変えられる～世界一新しい国、南スーダンの子どもたちの現状～」と題して講演を行った。会場の参加者は、写し出される映像を見ながら講師の体験談に熱心に聞き入っていた。また、両日とも「国境なき医師団」の公式教育プログラムである「世界といのちの教室特別編 in 延岡」や「熱帯・毒蛇チャレンジ！」のワークショップを開催し、同医師団が講師を務める「世界といのちの教室特別編 in 延岡」には、当日の飛び入り参加者を含めた親子が参加した。

ワークショップでは、講師が実際に訪問した現地の写真を示しながら、衛生面が十分に整っていない環境だけでなく、様々な国の文化や宗教的な配慮も必要な中で、チームで協力して柔軟に対応していかなければならないことなど、紛争地での活動の様子を説明していただいた。

「医者になったつもりで考えてみる時間」では、それぞれ条件のある 2 人の患者をどうやって助けるかということを考え、グループで話し合った。参加者は、真剣な表情でお互いの話に聞き入り、自分の意見をしっかりと伝えていた。また、グループのメンバーに「あなたはどう思いますか」と尋ねるなど、難しい問題ながらも一生懸命に自分の考えを文章に起こし、言葉にしていた。

質問の時間では、「なぜ国境なき医師団では、がんの手術ができないのですか?」「言葉も通じ

第 2 号議案

ず、知り合いもないところでどうして挑戦したいと思えるのでしょうか？」といった質問があり、講師が一人一人に対し丁寧に回答した。帰り間際にも講師へ質問をしようと声をかける参加者の姿も見られた。

参加した子どもたちからは、「世界ではどんなに苦しいことがあっても頑張っている人がいること」や、「今の自分の生活がどんなに幸せか改めて感じた」などといった感想が寄せられ、参加者は、世界で起きている命の危機を知り、考える機会になるとともに、その命を支える同医師団の人道援助活動についても、大いに理解を深めることができた。

令和6年度事業報告

《受託事業の部》

・事業名 論理コミュニケーション **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和6年7月20日(土)～令和6年9月28日(土)
場所：対面(延岡市コワーキングスペース、延岡市社会教育センター、
延岡こども未来創造機構事務所)
オンライン(自宅および延岡こども未来創造機構事務所)

対象者：中学1年生～高校3年生

参加料：検定料 3,350円



・実施実績

参加者数：4名

・記録写真



・目的

これからの社会を生き抜くために必要な「自分の考えを論理的に構築し、相手に分かりやすく表現し、コミュニケーションを図っていく力」を育成することにより、多様な社会を生き抜く力を育む。

・内容

慶応義塾大学が研究開発した設計図を基に、自分の意見や根拠を列挙し、論理的な文章を書く力を養う。繰り返し記述することにより、総合的に論理的なコミュニケーション能力の向上を促す。

・成果

初回は SFC 研究所の講師による対面授業を実施し、参加者へ本講座の意義・理解を促した。その他の日程に関しては、検定時以外はオンライン授業を中心に、参加者は自宅や機構事務所で受講した。参加者

第2号議案

は、講座の前半は、設計図を用いた自分の根拠や事例を抽出する作業に苦戦している様子が見られたが、回を重ねるごとに設計図を活用し、論理的な文章を組み立てられるようになっていた。実際に参加者に実施したアンケートからは、「小論文の課題が前より解きやすくなった」「作文を書く時に論コミの手法を使ってみました。これまでより書きやすかったです」「最初は難しいと思ったけれど、授業を受けて自分がどんどんできるようになった」など参加者自身で能力向上が実感できたようだった。その他、「学校の授業内で実施してほしい」「公立だけでなく私立でも受けられるようになればと思います」と、講座の意義を感じている声も聞かれた。

・事業名 STEAM ワークショップ **遊びと学び**

・実施概要

日時：第1弾 令和6年8月10日(土)～令和6年8月11日(日)

第2弾 令和6年8月20日(火)、令和6年8月22日(木)、
令和6年8月26日(月)

場所：第1弾 延岡市役所講堂 第2弾 野口遵記念館 フリースペースB

対象者：小学生親子(第2弾は小学4年生以上は子どものみも参加可)

参加料：500円



・実施実績

参加者数 138名(第1弾:73名、第2弾:65名)

・記録写真



・目的

実用的なものづくりをする「工学」の活動を通じた学習の中で、実験や観察から法則性を見出す「科学」、最適な条件や仕組みを見出す「技術」、数量を論理的に表し使いこなす「数学」、創造力を育む「芸術」の視点を統合的に学ぶ学習を推進することを目的とする。

・内容

第1弾: データサイエンス・水力発電・ロケットランチャーの3つのプログラムを実施。水力発電・ロケットランチャーでは、身近なダムや水車などの仕組みについて解説するとともに、エネルギーの活用について作業を通し

第2号議案

て体感的に理解する。今年度新たに加わったデータサイエンスでは、参加者同士でアンケートを取り、データを用いてかわいいキャラクター作りに挑戦する。こうありたいという目標を明確にし、試行錯誤を繰り返す中で主体的に学びに向かう力や活用力を育む。

第2弾:ゴム動力カーのプログラムに加え、保護者向けにSTEAMの説明を実施し、家庭でも楽しめる身近なSTEAMを実感してもらう。STEAM活動に参加できる機会を提供するとともに、「ものづくりのまち」としての本市を感じられるよう野口遵記念館において実施。

・成果

第1弾:水車など、具体的な事例から物事の仕組みを知ることにより、STEAMの考え方について分かりやすく説明し、学びの目的理解を促した。また、つまずきに対しては、どうすれば解決できるか参加者それぞれに合わせた問いかけを行い、気づきを促すことにより、歯車の組み合わせを変えるなど自発的な工夫が行われていた。

データサイエンスでは、アンケートを作ってデータを取る過程で、参加者同士が積極的に交流する様子も見られた。他の参加者の作品を見ることで、新たな気づきにもつながっていた。

参加した子どもからは、「工夫することが多くて、工夫していく度に改良されていくのが分かって面白くて楽しかった」「何回も歯車を変えて、一番長く回る歯車を見つけたことが楽しかった」「みんなの意見を聞きながらキャラクターを変えていくところが楽しかった」との感想があり、それぞれの観点で楽しみながら、自ら学びを深めることができたと考えられる。子どもたちがトライ&エラーを繰り返しながら、問題を解決するSTEAM教育の本質を体感できていた。

第2弾:第1弾と同様に、具体的な事例を用いてワークショップの目的を分かりやすく解説した。また、保護者向けのSTEAM教育の説明を実施し、STEAMの考え方やワークショップ中の子どもへの関わり方への理解を促した。参加した子どもからは、「ゴムで車が動くななんて驚いた」「距離を伸ばす為に色々な工夫を考えるのが楽しかった」などの感想があり、新しい発見や試行錯誤することの楽しさを体感できていたと感じる。中には、初めてゴム動力カー作りを体験し、その後のワークショップのすべての回に繰り返し参加するほど熱中した子どももいた。

・事業名 英語モチベーションアッププログラム **共育**

・実施概要

日時:サマープログラム

令和6年8月16日(金)、令和6年8月17日(土)、
令和6年8月18日(日)

フォローアッププログラム

・対面ワークショップ

令和6年10月27日(日)、令和6年12月8日(日)、

・オンライン英会話

令和6年9月15日～令和6年1月14日(月8回、全32回受講)

場所:サマープログラム、フォローアッププログラム共に延岡市役所講堂

対象者:中学生・高校生

参加料:サマープログラム 6,000円

フォローアッププログラム 2,000円



第 2 号議案

・実施実績

参加者数: サマープログラム 26 名
フォローアッププログラム 13 名

・記録写真



・目的

社会においては、様々な国や地域の人と協働することがますます必要とされている。文化や地域の異なる相手との価値観・コミュニケーションの違いなどについて理解を深め、その中で自身の力を発揮し、チームワークよく物事を成し遂げる力を養うとともに、コミュニケーションや英語を含めた言語力の重要性に自ら気づき、英語等の語学を勉強することが自分の進路の選択肢を広げることになることを学ぶことを目的とする。

・内容

① サマープログラム

グローバル化が進む今日に必要な、国内外を問わず活躍できる人材になるためのマインドセットや、自身の想いを表現する効果的な表現方法、将来やりたいことの探求と英語を習得する意義などを学ぶ。海外経験が豊富な多様な講師陣と共に、グローバルな体験ができる3日間のサマープログラムを実施。

② フォローアッププログラム

サマープログラムの参加者のうち、さらなる学びを希望する参加者に対し、フォローアッププログラムとして「対面ワークショップ」と「オンライン英会話講座」を実施。

・成果

① サマープログラム

連続した3日間、講師やALT、国際交流員と英語で関わりながら、自分がどうなりたいか、どうありたいかを見つめ、実現に向け行動を起こす時間を醸成していった。互いに協力して解決するゲームや単語テスト、その他様々な社会問題に対する解決策についてお互いに意見を出し合い、最終日にそれを披露した。披露するまでの過程で、ALTや講師、国際交流員から表現方法のアドバイスを受けたり、質問されたりすることで、分かりやすい表現方法や、人に伝わる表現とは何かを模索していった。最初はうまく話せない、話す勇気が出ないといっ

第 2 号議案

た状況だったが、それを伝えたり、感じたりし、お互いを支え合い、忘れた台詞を教え合うなど協力し合うことでコミュニケーションをとり、絆を深めていった。

参加者へのアンケートでは、自分にとって一番大切な学び・気づきとして「自分は今何に興味があるか知ることができた」「とにかく挑戦することが大事」「言語にかかわらず、コミュニケーションの楽しさを知ることができた」「英語を話せたら、世界がどんどん広がっていく」などがあつた。

失敗を恐れず、まずやってみる。そして多くのフィードバックをもらって改善を繰り返すことの大切さを学んだ経験が、将来の 1 歩へとつながることを参加者自身が自ずと学んでいったようだった。

プログラムを通して、文化や地域の異なる相手とのコミュニケーションの違いを理解すること、またその中で自身の力を発揮しながらチームワークで成し遂げる力を養うこと、さらに英語等の語学を勉強することが自分の進路の選択肢を広げることになることを学ぶといった、本事業の目的を達成できたと考えられる。

②フォローアッププログラム

対面ワークショップでは、英語モチベーションアッププログラムと一緒に過ごした仲間たちと様々なゲームやアクティビティを通じて、グローバルコミュニケーションツールとしての英語を学ぶ意味や楽しさについて考えた。

最終日には、自分からすすんで ALT に話しに行ったり、ジェスチャーや表情を交えながら、自分の話だけでなく相手の話に対して質問したりと、参加者には大きな変化が見られた。

参加者アンケートでは「他の人の留学の経験を聞いて、実際に自分も行きたいと思い、行動し、留学に行けることになった」「できないということを隠して、できることだけをやるよりも、できないことについてたくさん挑戦したりすることや、計画立てて何かに挑戦してみることがとても大切だと思った」という意見があり、自らの力で行動することや、コミュニケーションをとろうとする動機づけができたようだった。

その他、「去年も英語フォローアッププログラムに参加し、今年もより新しい気づきを得ることができ、自分でも変わったと思えた」という意見もあった。

また、参加者の多くに、「英検〇級に合格した」や、「2025 年 1 月の英検を受検する」という目標の声が挙げられ、自分の目標に向かって何ができるかや、選択肢を広げるために英語を学び続けるというところで、本プログラムの効果が現れたといえる。

オンライン英会話講座では、ネイティブ講師とのオンライン英会話を参加者が各自で受講した。次第に会話を続けることや会話を広げること、また、新しく習った単語が使えるようになり、最後は英語をためらいなく話せるようになってきたという声や、リスニングが得意になったという声が聞かれたことから、講座を通して自身の英語力の向上を実感できたようだった。

また、対面ワークショップで仲間と再会したことで、さらに奮起しオンライン英会話の回数を伸ばしていった参加者も見られた。

英語モチベーションアッププログラムやフォローアッププログラムを通して、英語等の学習や自分の進路に対して前向きにチャレンジできるマインドセットを育むことが出来たと考えられる。

・事業名 東京学芸大学学生インターンシップ(秋季) **共育**

・実施概要

・インターンシップ

日 時：令和 6 年 9 月 2 日(月)～令和 6 年 9 月 13 日(金)

場 所：黒岩小中学校、延岡小学校、岡富小学校、旭小学校、岡富中学校、学びの多様化学校

参加者数：東京学芸大学学生 4 名、宮崎大学学生 2 名、南九州大学学生 3 名、

九州医療科学大学学生 3 名

第2号議案

・教育大学リーグミーティング

日時:令和6年9月13日(金)

場所:九州医療科学大学

参加者数:延岡市内高校生17名、延岡市内中学生5名、受入れ学校長・派遣学校教員他27名

・記録写真



・目的

東京学芸大学は、教育に携わる多様な人材の育成に取り組んでおり、その取組みの1つとして「学生インターンシップ事業」を行っている。教員免許取得のため3～4年生時に行う教育実習の練習の場として、希望する学生に小学校で2週間程度、担任の先生を補助する立場で授業に携わり、経験を積むことと併せて、多様な教育人材を育成するため、東京都近辺の小学校では経験することのできない経験を積むことを目的とする。加えて、宮崎大学・南九州大学・九州医療科学大学において教員を目指している学生にも参加してもらい、学生同士の交流等によって効果を拡大させることを目的とし、延岡市教育委員会と連携した「教育大学リーグ」を開催した。

延岡市としては、学生に延岡を知ってもらい、興味を持ってもらうことで、延岡こども未来創造機構に携わる人材や学校教員の確保などにつなげることに加え、子どもたちに対しては多様な人間と触れ合うことによる社会的能力の向上を目的とする。

・内容

「東京学芸大学」と「延岡市・延岡市教育委員会」との連携協定に基づき、大学の休業期間を活用し、東京学芸大学の学生に「学生インターンシップ事業」として、大学の授業で学んだことを実際の教育現場で実践する機会を提供した。

東京学芸大学からのインターンシップ生4名に加えて、宮崎大学・南九州大学・九州保健福祉大学において教員を目指している学生も参加し、黒岩小中学校、延岡小学校、岡富小学校、旭小学校、岡富中学校、学びの多様化学校で2週間学校ボランティアとして活動した。学校での活動の前には学生と機構によるオンライン打合せを行い、期間中に開催した自然体験ワークショップにおいては、STEAMの視点を取り入れたワークショップを企画、開催した(内容は28ページに記載)。

第2号議案

9/13には、教育委員会との共催による「教育大学リーグミーティング」を開催し、学生がインターンシップで感じた教員や教育の魅力について発信した。

・成果

学校ボランティアでは、学生が規模の違う学校現場を体験・比較し、環境によって全く違う教育のあり方や、教育現場の理想と現実の差などを体感したことにより、改めて教育に対する熱意や問題意識が高まっていた。学生からは、「自分が想像していたよりも授業内容やシステムが変わっていたことを知ることができた。また、多様な学校では不登校に対する支援が充実していることを学ぶことができ、取組みの中には通常学級にも取り入れられそうなものも多くあると感じた」「東京で教員になることを考えておりましたが、大都市と比べて一人一人の子どもに向き合うことができる、地方の教育に携わるやりがいも感じるようになりました」との感想があり、東京近辺での学校では体験できない経験を積むことができ、大学での学びやキャリア形成につながった。

ミーティングでは、学生全員がインターンを通して感じたことを発表した後、「教員にとって大切なこと」について話し合った。教員にとって大切なこととして、「子どもに寄り添う」「個性の理解」「学び続けること」などの意見があり、インターンシップ中に経験した話を交えながら意見を交わしていた。また、観覧に参加した教育分野に興味のある中高生も交えて、「せんせいトーク」を実施。グループごとにワークシートを用いて、「先生になってやりたいこと」や「なりたい先生とは？」について語り合った。最後の質疑応答では、中高生から「子どもに寄り添う先生とはどんな先生か」「学び続けるために何をすればよいか」など、大学生から出た意見をさらに深掘りする質問がみられた。このことから、本事業の目的の一つでもある「本市の教育に携わる人材の確保につなげる」という点を達成できたと考える。

・事業名 自然体験ワークショップ～上祝子トレッキング～

体験

・実施概要

日時：令和6年9月7日(土)

場所：延岡市北川町 上祝子地区、祝子川キャンプ場

対象者：小学4年生～高校生

参加料：1,000円/人

・実施実績

参加者数：10名

・記録写真





・目的

延岡ならではの自然環境を活かしたアウトドア体験をすることで、ふるさとに対する愛着と誇りを持つ心を育むことを目的とする。また、教員を目指すインターン生が、STEAM の観点を取り入れたワークショップの企画・運営を行うことを通して、授業づくりや子どもとの関わり方を学べる機会の提供を目的とする。

・内容

延岡ならではの自然環境であるユネスコエコパークエリア内の「上祝子」において、自然体験活動を実施した。午前中は、地域の団体と連携して、上祝子をトレッキングしながら、この場所でしか見られない巨石群や豊富な水源などの景観に触れ、植生や昆虫などを観察することで、ふるさとに対する愛着と誇りを持つ心を育んだ。

午後からは、教員を目指しているインターンシップ生の企画する STEAM の視点を取り入れたワークショップ「竹製水鉄砲で紅白水合戦！」を行い、インターン生が実際にイベントの企画・準備・運営を行うことで、教育に対する自分の考えを深掘りする機会とした。

・成果

午前中の上祝子トレッキングでは、この場所ならではの植生や文化などについてガイドの解説を聞きながら、巨石群や豊富な水源のある景観に触れ、昆虫採集等も行い終始楽しんでいる様子であった。トレッキングにはインターン生も参加し、昆虫採集や川遊びを通して参加者と学生が積極的に交流していた。また、参加者全員が上祝子に来たことが初めてで、上祝子地域の大自然に触れることができ充実した様子であった。

午後からのワークショップでは、参加者と大学生が協力して竹を使用した水鉄砲作りを行った。竹から水が出るように穴をあける作業や、押し棒の作成などどうすれば思いどおりに水が出るか、それぞれが試行錯誤しながら真剣な眼差しで工夫していた。その後、2 チームに分かれ、どちらのチームが多くの的を落とせるかを競い、子どもたちはびしょ濡れになりながらも、夢中になっている様子であった。子どもたちからは、「透明の川もきれいだったし、冷たかったし、カナヘビを見つけたり、竹の水鉄砲を作って水を飛ばしたのも面白かった。もっと遊びたかった」、「大学生といっぱい話すのが楽しかった」などの感想があり充実した一日を過ごせたようだった。

また、今回の活動では、地域の団体との連携だけでなく、学生インターンシップに参加した教員を目指す学生がワークショップを企画・実施したことで、学生にとっても子どもたちにとっても非日常を体験できる機会を提供出来たとともに、ふるさとの良さを再確認、新しい発見ができたと考える。

第2号議案

・事業名 ゆるスポ DeCō 教室 in 延岡 **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和6年10月26日（土）

場所：東小学校体育館

対象者：4歳以上～中学3年生

（未就学の方は保護者同伴必須、介助が必要な方は介助者同伴）

・実施実績

参加者数：31名 保護者同伴者含む

・記録写真



・目的

障がいの有無に関わらず子どもたちが協働してスポーツ遊びを楽しむことができる機会をつくり、参加者に発達障がい等の特性の理解を促すことが目的。

・内容

年齢、性別、障がいの有無に関わらず子どもたちが一緒になって遊べて楽しむこと、発達障がい等の特性を理解することを目的として、「勝ったら嬉しい、負けても楽しい、誰もが楽しめるスポーツ」として開発された新スポーツ『ゆるスポ DeCō』を実施。本プログラムを開発した東京学芸大学 鈴木聡研究室及び東京学芸大こども未来研究所と連携し、2時間で4つの種目（むちゅう de しゅうかく虫/きび一つす/ラン Big キューブ/サバいばる）を実施した。

・成果

参加対象は「4歳児～中学校3年生」を目安とし、体格差を考慮して「午前の部：4歳児～小学校3年生」「午後の部：小学校4年生～中学校3年生」に分け参加者を募集した。

第2号議案

午後の部については、申込者が少なかったことや、会場にて翌日の選挙準備が行われることなどから中止となった。午後の部の申込者には午前の部への参加を願ひし、グループ分けの際には体格差に留意した。なお、午後の部の申込者が少なかった原因としては、中体連やのぼりざるフェスタと日程が重なったことが考えられる。

午前の部には、4歳児～小学校4年生までの計31名が参加した。各種目で、子どもたちがそれぞれの特性に応じて力を発揮し、楽しみながら体を動かしていたことから、自然な流れの中で参加者同士が助け合い、励まし合う姿が見られた。参加した子どもからも「スポーツの楽しさがさらに分かりました」「自分からみんなと遊べました」という声があがっていた。また、保護者が前に出て応援したり、参加者をサポートしたりする姿が見られ、参加者だけでなく保護者にも『ゆるスポ DeCÖ』の楽しさや意義を共有できたと感じた。

このように、誰もが楽しめるスポーツ『ゆるスポ DeCÖ』を通じて、参加者・保護者・スタッフが様々な垣根を越えて関わりを持つことができたことにより、本事業の目的である「年齢、性別、障がいの有無に関わらず子どもたちが一緒になって遊べて楽しむこと、発達障がい等の特性を理解すること」を達成できたと考えられる。

・事業名 イングリッシュデイキャンプ **体験**

・実施概要

日時：プレイベント：令和6年11月16日(土)

本イベント：令和6年11月30日(土)

場所：プレイベント：延岡市社会教育センター

本イベント：須美江家族旅行村 キャンプ場

対象者：小学校4年生～高校3年生

参加料：2,500円



・実施実績

参加者数：37名

・記録写真



第2号議案

・目的

「英語が通じた」「外国の人とやりとりができた」という実体験を一人でも多くの子どもたちに経験してもらうため、様々なアクティビティを通してネイティブな英語に触れる機会を作ることを目的とする。

・内容

プレイベント(11/16)及び本イベント(11/30)の2日間開催。

地域づくりサークル「わかあゆ」と連携し、須美江家族旅行村を中心に外国語を用いて、イルミネーション作製やウォークラリー、夕食づくり体験活動などを行う。グループ活動は、小中高生や延岡市のALT、大学生ボランティアなど異学年、異年齢で構成されたグループで実施。自然な会話の中で、一人でも多くの子どもたちがネイティブの英語に触れる機会として開催した。

・成果

プレイベントは、レクリエーション活動を通してチームビルディングを行い、参加者同士や海外青年との交流を深める機会とした。イルミネーション制作活動や歌やダンスの時間など言語に頼らない交流の時間も設定した事で、英語に慣れていない参加者も積極的に活動することができた。

本イベントは、野外活動を中心に班活動を行った。班内では参加者と海外青年が英語で会話している様子も見られ、参加者は活動を通して自然な形で英語に触れることができた。また高校生が班内の小中学生をまとめるなど、年齢や言語の枠を超えて交流を深める機会になった。

昨年度の参加者も10名おり、プログラムの意義が伝わってきたと感じる。

参加者アンケートでは「また参加したい」「二日間だけでこんなにたくさんの思い出ができると思わなかった」「二日間を通して少し英語のことが好きになりました」などの意見があり、気軽に英語に触れることの楽しさや身振りなどのコミュニケーションツールの一つとして英語を活用し伝えることの楽しさ、普段できない体験をすることで得られる価値を体感できた様子である。

・事業名 JFA ころのプロジェクト「夢の教室」 **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和6年12月9日(月)、10日(火)、11日(水)

場所：東海中学校、北方学園中学校

対象者：中学校2年生

・実施実績

参加者数:160名

・記録写真





・目的

JFA「公益財団法人日本サッカー協会」と連携して、様々な競技の現役/OB/OG等のスポーツ選手が「夢先生」として学校で登壇し、「夢を持つこと」や「その夢に向かって努力することの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などを、夢先生の体験談を通じて子どもたちに伝えることを目的とする。

・内容

松本弥生さん(競泳)、田中英雄さん(サッカー)が夢先生として登壇し、東海中学校と北方学園中学校の2校(計5クラス)の中学2年生を対象に、生徒たちが体育館で夢先生と一緒にゲーム等で楽しんだあと、教室で夢先生がこれまでの人生における挫折や成功など、自身の体験談を「夢曲線」を描きながら話した。

夢先生の松本弥生さんは、「水泳を辞めたいとコーチに相談した時期もあったが、将来必ず表彰台に立てる。頑張り過ぎないでいいというコーチの言葉に気持ちが楽になり前向きになれた」、「オリンピックに出られたらいいのではなく、絶対に出るという強い気持ちで練習に励み自信をつけた」こと、また、田中英雄さんは、「一人で自分を育ててくれた母への恩返し of 気持ち、そして、友だち、サッカー仲間などたくさんの支えがあってプロになる夢が叶えられた」、「たとえ逆境の中でも自分を信じるのが自信につながる」など、これからさまざまなハードルを乗り越え成長していく生徒たちへ、夢先生から熱いメッセージが贈られた。

・成果

生徒たちは、夢先生の言葉に真剣に耳を傾けながら、夢シートに自分の将来の夢や身近な目標などを書き込み、夢先生の前で発表を行った。

生徒からは「元プロ選手に会うのは初めてでうれしかった」、「これから自分の夢に向かって自信をもって頑張っていきたい」など、前向きで意欲のある感想が聞かれ、夢先生のメッセージをしっかりと受け止めていた。

こうした経験は、生徒たちにとって、これからの生き方において夢を持つことや努力することの大切さを学ぶ機会になったと考える。

・事業名 STEAMラボ **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和6年10月5日(土)～令和7年3月14日(金)

場所：延岡子ども未来創造機構事務所、コワーキングスペース等

対象者：延岡市内に在籍または在住の中学生・高校生

・実施実績

参加者数: 2名

(特別企画:モクテル※を作って市長と語ろう:22名、推し活カフェ:29名、ICT特別講座:0名)

※モクテルとは、モック(MOCK(見せかけの))とカクテルを合わせた造語で、最初にテーマを決め、炭酸水や様々なジュースを少しずつ混ぜながら味見を繰り返し、理想のジュースを作るために試行錯誤する企画。



第2号議案

・記録写真



・目的

東京学芸大こども未来研究所が提唱する STEAM 教育における問題解決の「7つのプロセス」を用いて、自分自身の発想で身の回りの生活や社会の問題を見つけ出し、よりよい生活や社会にしていくための価値を創り出す力を育むことを目的とする。

約5か月に渡り継続的に行うことで、大人と子どもが共に思い切り試行錯誤し、自分なりの価値を創り続けていくことを目指す。

・内容

延岡市のまちの問題を発見し、ありたい姿を描き、解決策を具体化するため、ありたい姿の創造、現状の認識、問題の特定、データサイエンスなどを活用した問題の原因探求、課題の設定、課題の解決策(プロトタイプ

第2号議案

試作)、成果発表の過程を通して、問題解決の手法や仕組みを理解し、参加者が協力して解決策を社会実装するという問題解決の体験を行った。

初回と発表会を含めた6回、講師による対面またはオンラインでの活動を実施し、参加者へSTEAMラボの意義・理解を促した。その他の日程に関しては、参加者とファシリテーターが機構事務所で直接対面し、また、オンラインやSlackでコミュニケーションを取るなど、それぞれ探究を進めた。

参加者は、自らの関心の高い社会課題として「学校でのICT利活用」と「みんなが楽しく集まれる場所づくり・推し活」を挙げ、「学校でもっとICTを活用したい」「推し活をテーマにみんなが集まれる場所をつくりたい」というテーマで探求活動を行った。

・成果

活動を進めるにあたっては、初回到延岡市の職員より市の現状や課題を話していただいたり、地域の大人や県外の若者にファシリテーターとして参加いただいたことで、参加者が多面的な視点でより深く探求できたと思う。参加者も、最初は初対面ということもあり緊張している様子だったが、回を重ねるごとに講師やファシリテーターと積極的に意見を交わし、子どもと大人が一緒になって課題解決に向けて試行錯誤する姿が見られた。

2月15日に行ったデザインスクールとのコラボ回では、「課題設定(ありがたい姿)の理由」「データサイエンスで特定した課題の原因(理想と現実のギャップ)」「プロトタイピング案」など、探究活動の成果を発表した。発表後は東京学芸大学の金子教授、大谷教授、慶應義塾大学の梅嶋教授(当時)からフィードバックをいただいた。参加者は、講師からの問いに対して自分の頭でしっかりと考えて答えられており、講師とのやり取りを通してさらに自分の問いが深まった様子が伺えた。

2月22日の振り返りでは、これまでの活動で学んだことを振り返りながら、参加者が次のありがたい姿を考えた。参加者からは「ICTを使って宇宙や科学者とつながりたい」「延岡に推しを呼びたい」など具体的な意見が挙がり、STEAMラボの目指す“身のまわりの生活や社会の問題を見つけ出し、よりよい生活や社会にしていくなための価値を創り出す力”が育まれていると感じた。実際に参加者からも「自分の経験の範囲や視野が広がってとても良い経験をしたと思っている」との声をいただいた。

参加者がコラボ回で発表したプロトタイピング案は、「推し活カフェ」「ICT特別講座」として、機構事務所にて試行した。調べたり考えたりするだけに留まることなく、実際に社会に働きかける経験をしたことで、自ら考え問題を解決する『生きる力』をさらに高めることができたのではないかと考える。

また、11月には、より多くの方にSTEAMラボを知っていただくための特別企画として「モクテルをつくって市長と語ろう!」を開催した。モクテルづくりでは、参加者がそれぞれ理想のモクテル(=ありがたい姿)を設定し、それを実現させるために試行錯誤しながらレシピを完成させることで、STEAMを体験していただいた。さらに、完成したジュースを読谷山市長に試飲していただきながら、ジュースの名前やどんな思いを込めて作り上げたかななどを語り合った。参加者からは「楽しくモクテルを作ることができた」「モクテルを知る機会になったり、市長に質問したりでき楽しかった」との声をいただいた。モクテルづくりを通して、試行錯誤するプロセスや探究することの面白さを知っていただき、STEAMへの興味を深める機会になったと考える。

・事業名 東京学芸大学学生インターンシップ(冬季) 共育

・実施概要

日時：令和7年2月25日(火)～令和7年3月7日(金)

場所：延岡市立旭小学校、延岡市立岡富小学校、延岡市立岡富中学校、延岡市立西階中学校、延岡市立南中学校、延岡市立南浦中学校学びの多様化学校分教室「熊野江教室」

対象者：東京学芸大学学生、小田原短期大学学生

第 2 号議案

・実施実績

東京学芸大学学生 6 名、小田原短大短期大学学生 1 名

・記録写真



・目的

教員を目指す学生が現場を体験することで本市の子どもたちのキャリア形成につなげるとともに、異なる環境で生活する学生と触れ合うことによる子どもたちのコミュニケーション等の社会的能力の向上や、やり抜く力・自己肯定感の向上など非認知能力の向上を図ることを目的とする。また、教育現場における教員不足が深刻化していることから、本事業を通して本市の教育環境の魅力を発信するとともに、本市教育に携わる人材の確保につなげることを目的とする。

・内容

東京学芸大学からは、秋季に参加した 4 名に加え、新たに 2 名の学生が参加した。さらに、小田原短期大学から 1 名が参加し、計 7 名の学生が 2 週間の学校ボランティアを通して、幅広い学年で教員らの業務補助や子どもたちとの関わり方を学んだ。また、東京学芸大学の学生 6 名は、「プログラミング体験会」の当日スタッフや、学生自ら企画したワークショップの準備・運営などに係る業務を行った。

・成果

学校ボランティアでは、授業見学から始まり、授業支援や教員の補助、宿題の丸つけやコメント記入、体育や部活動を通じた交流、授業づくり及び授業実践など積極的な活動が行われ、子どもたちや学生自身の成長だけでなく、学校関係者にも刺激となる機会の提供につながった。今回は例年と異なり、7 名が 6 校に分かれて学校ボランティアを行ったこと、中等教育・保育を専攻する学生は小学校へ、初等教育を専攻する学生は中学校

第2号議案

へと、自分の専門とは異なる校種での学校ボランティアを経験したことで、教育的視野が広がっただけでなく、将来的に校種間の連携を意識した指導を行うことができる教員になるための経験を得たと考える。

東京学芸大学の学生がワークショップとして行った「空飛ぶタネをつくって遊ぼう!」には、学校ボランティア受入校の児童が遊びにくるなど、本事業を通じて学生・児童・学校・関係者に好影響を与える波及的効果があり、多様な教育人材の育成につながったと考える。

また、学生からは滞在を通じて、「(前期と異なり)今回は1人であったため、自主的に行動する力が養われたと感じた」「始まる前は、縁もゆかりもない中学校いきなりインターンシップ生として活動できるのか不安でした。しかし実際に始まった後で、中学校の先生方をはじめ生徒が温かく迎えてくれたので、何事にも積極的に取り組むことができました」「たくさんの学びがあり、インターン以前よりも中学生生徒の解像度が上がったように思います。また、社会人としての自覚を持つことができました」と感想があり、延岡での体験が今後の自身のキャリア形成につながったと考える。

さらに、「地方の教育の特徴を学ぶことができ、逆に自分も意見を発信して風通しのよい現場づくりに貢献できたと思いました」という学生の感想や、「生徒たちもいい思い出ができたと思いますし、我々職員もずいぶん助かりました」という受入校の先生からいただいた感想から、本事業の目的の一つでもある「本市の教育に携わる人材の確保につなげる」という点も達成できたと考える。

・事業名 プログラミング体験会 **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和7年2月25日(火)～令和7年2月28日(金)

場所：延岡こども未来創造機構事務所

対象者：小学4年生～高校生

・実施実績

参加者数:7名(開催期間中に複数回した参加者有)

・記録写真



第2号議案

・目的

参加者が自ら設定したプログラミングやゲーム制作を通じて試行錯誤を楽しむ機会を提供するだけでなく、プログラミングへの関心を高め、参加者同士の交流を促進し、放課後の居場所づくりの可能性を探ることを目的とする。また、東京学芸大学の学生という「ナナメの関係性※」にある若者が学びの伴走者となることで、参加者との「共育」も図る。

(※)親や教師のような「タテの関係」や、友人同士の「ヨコの関係」とは異なる、第三者との関係

・内容

当機構の運営委員であり、フリーのプログラマー、謎解き集団「NOBE-Q」代表の佐藤一輝氏を講師としてプログラミング体験会を実施した。講師が一方向的に進めるのではなく、参加者が体験しながら、出てきた疑問点に随時講師が答える方法で実施した。プログラミングには、スクラッチや Unity、NintendoSwitch を使用し、参加者は、「ゲームが作りたい」など、それぞれの目標を実現するために試行錯誤しながらプログラミングにチャレンジしていた。また、東京学芸大学学生インターンシップ(冬季)に参加した学生6名が参加者の活動をサポートした。

・成果

本イベントは開催期間中に自由な時間で参加できるようにしたため、毎日参加してくださった方や、飛び込みで参加してくださった方など、連日1~5名の参加があった。参加者からは「この体験会を通してプログラミングがもっと好きになった」「自分でつくったゲームで遊べたのが楽しかった」という声があり、プログラミングやゲームへの興味、関心をさらに深められたようである。また、今回の体験会で初めて会った参加者どうしの交流も生まれ、一緒にゲームを楽しむ姿も見られるなど、放課後の居場所づくりにつながる可能性があると考えられる。

・事業名 「空飛ぶタネをつくろう」ワークショップ **遊びと学び**

・実施概要

日時：令和7年3月8日(土)

場所：エンクロス(午前中:1F キッズスペース、午後:2F 中央大ラウンジ)

対象者：どなたでも参加可

・実施実績

参加者数:60名(午前:38名、午後22名)

・記録写真



第 2 号議案



・目的

参加者が自然や科学の仕組みを楽しく体験しながら学ぶ機会を提供することを目的とする。主に「ツクバネ」や「アルソミトラ」といった空飛ぶ種の模型製作を通じて、植物の生存戦略を体感し、物理学やものづくりの楽しさに興味、関心を持つようにする。また、年齢を問わず誰もが自由に参加できる環境で、自発的な学びや交流を促進し、創造性や挑戦する心を育むことを図る。さらに、東京学芸大学の学生が主体となって企画・運営を行うことで、学生たち自身も実践的な経験を積み、教育の現場で生かせる力を養い、教育者としての成長を促すだけでなく、参加者との交流を通じて多くの学びを得られる機会とする。

・内容

春季インターンシップに参加した東京学芸大学の学生 6 名を中心に企画・運営を行い、対象年齢を設けず、大人も子どもも自由に入退室できる立ち寄り型のワークショップを実施。参加者は、上に投げるとクルクルと回転しながらゆっくりと落ちる「ツクバネ」と、グライダーのように滑空する「アルソミトラ」の 2 種類の「空飛ぶタネ」を製作。インターンシップ生が作った型紙に合わせてチラシをカットし、折り目を付けたり、クリップで重りを付けたりして、各々が思い描く理想の飛び方を目指し試行錯誤した。

・成果

参加者は、それぞれの目指す種の飛び方を目指し、折り目を微調整したり、重りの位置や数を変えたり、飛ばす角度や力の入れ方を変えたりして、試行錯誤を繰り返していた。何度も挑戦することで、徐々に飛距離や滞空時間を伸ばせるようになり、自発的な遊びのなかで反復練習が生まれ、楽しみながら学ぶことができた。うまく飛ばせるようになると、参加者同士で飛距離や滞空時間を競い合う競技が自然と生まれ、新たな遊びをつくって楽しむ様子も見られた。また、学生が木をイメージして装飾したくす玉は、ただ楽しいだけでなく、「高い木の上からたくさんの種が落ちることで、より広範囲に広がる」という植物の生存戦略を体験的に学べる仕組みになっていた。以上のことから、本ワークショップを通して、参加者は植物や物理学の面白さ、ものづくりの楽しさを感じながら学ぶ機会を得たと考える。

R6 年度 広報部門 事業報告

1. チラシ作成・配布による広報

(ア)目的

対象の年齢層へ向けたチラシを作成し、学校などを経由して配布することで、機構のイベント等への集客力を高める。また、チラシ配布を通して機構の認知度向上に努める。

(イ)方法

a) チラシの作成

- ・対象の年齢層に合わせた色遣いやイラスト、フォントの使用を行う。
- ・情報を整理し簡潔にわかりやすく記載することで、申込みへのハードルを下げる。
- ・写真や講師の顔などをチラシに入れることで、雰囲気や親しみを感じられるようにする。

b) チラシの配布先

市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、大学、イオン延岡、エンクロス、フリースクール・塾、社会教育センターなど

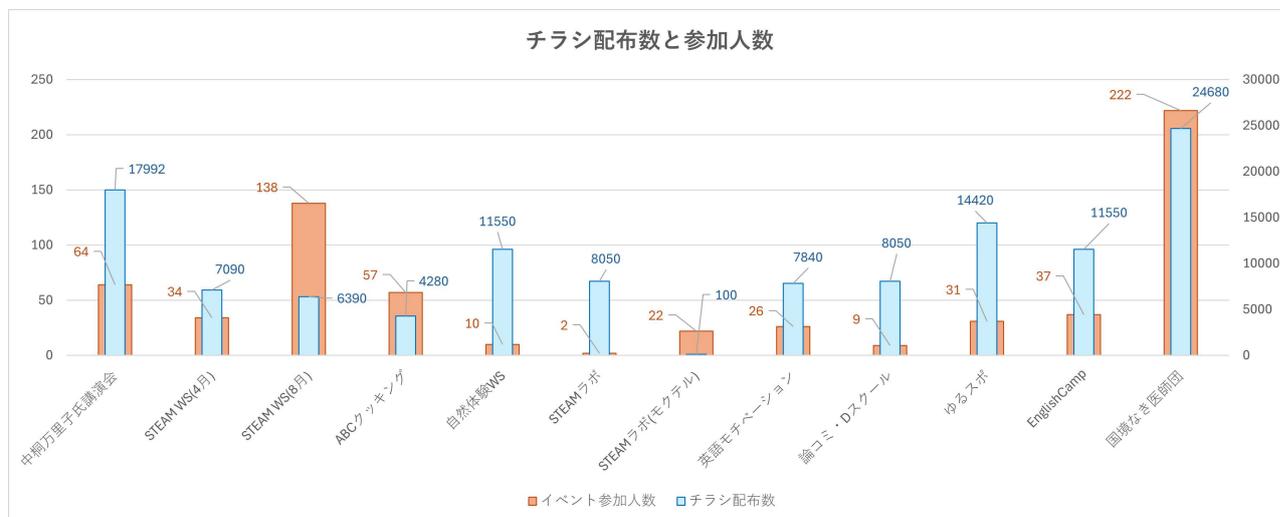
(ウ)結果

a) チラシ総配布数 (R6 年度) …121,992 枚

b) イベント等参加人数 (R6 年度) …1,626 人

チラシ総配布数	イベント等参加人数の合計	うちチラシを配布したイベント等の参加人数	チラシ配布数に対する参加人数の割合(参加率)
121,992 枚	1,626 人	652 人	0.53%

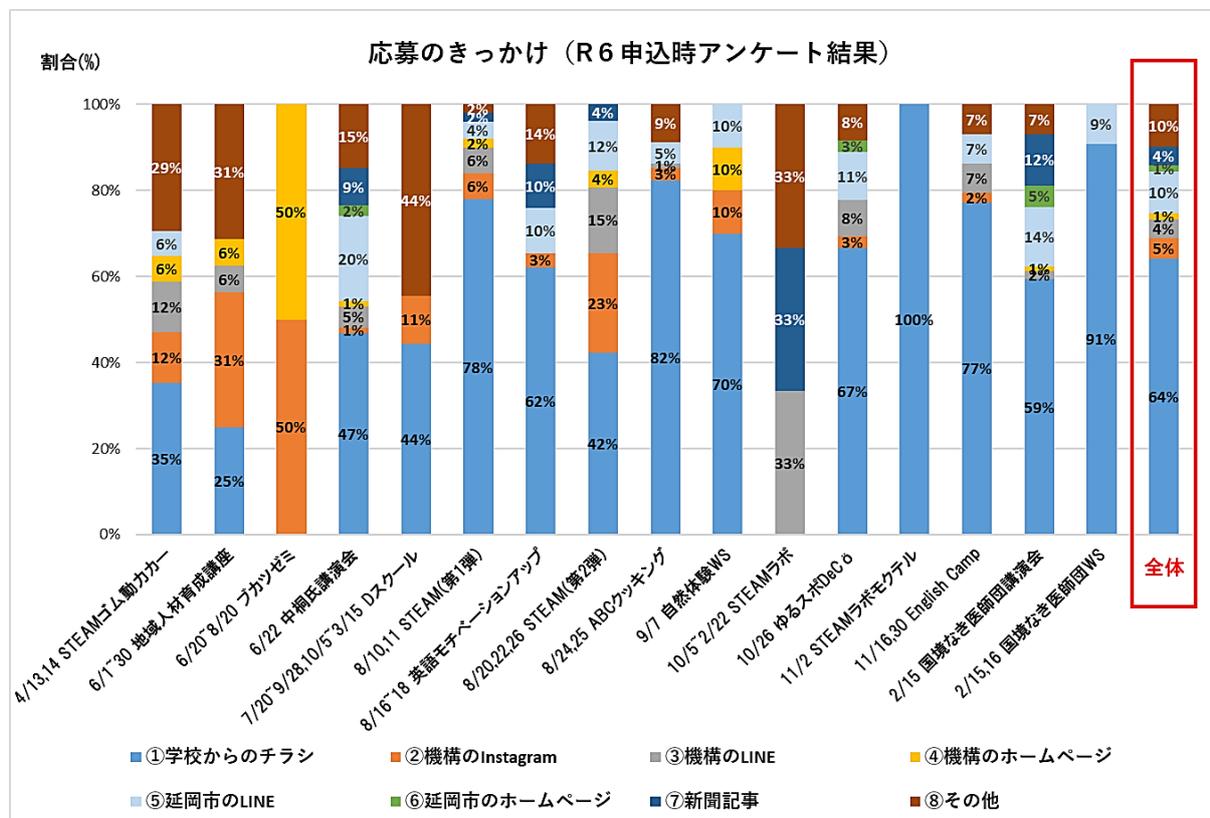
c) チラシを配布したイベントのチラシ配布数と参加人数



第2号議案

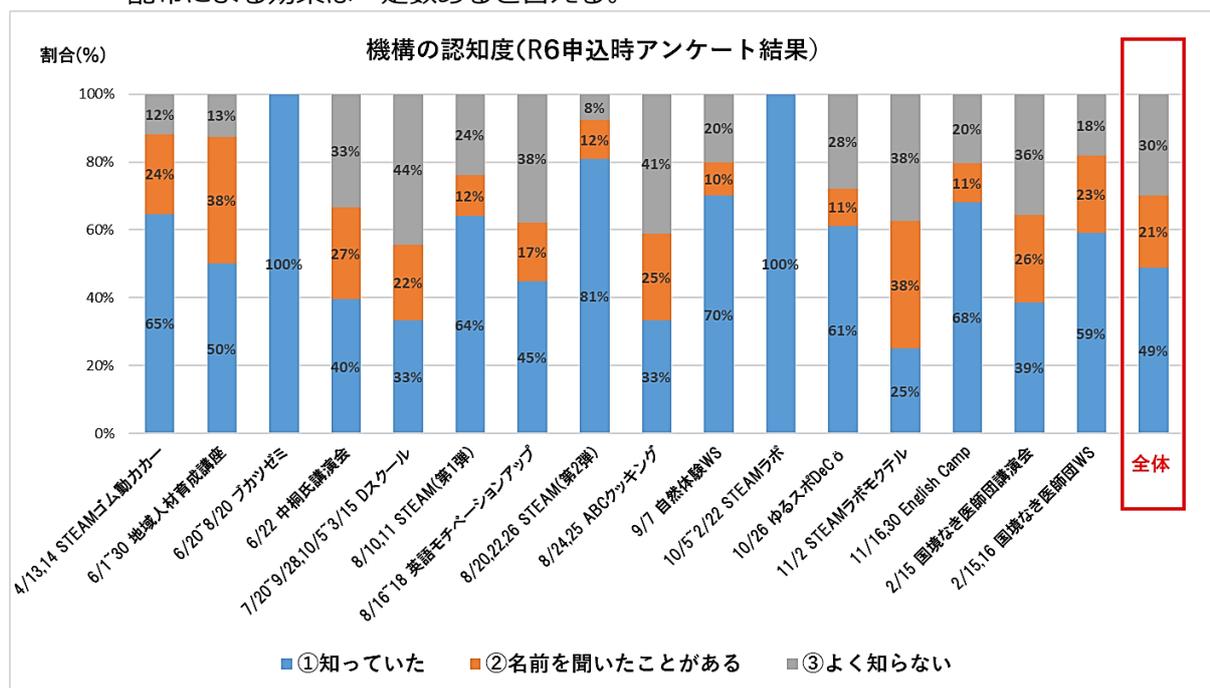
d) チラシを見て応募した人の割合（556名中）

参加者へのアンケート調査で、応募を決めたきっかけを聞いた結果、全体では「学校からのチラシ」が最も多く64%を占めている。



e) 機構に関する認知度（556名中）

参加者へのアンケート調査で、機構に関する認知度を聞いた結果、全体では「知っていた」49%、「名前を聞いたことがある」21%で、合計70%に達しており、チラシの作成・配布による効果は一定数あると言える。

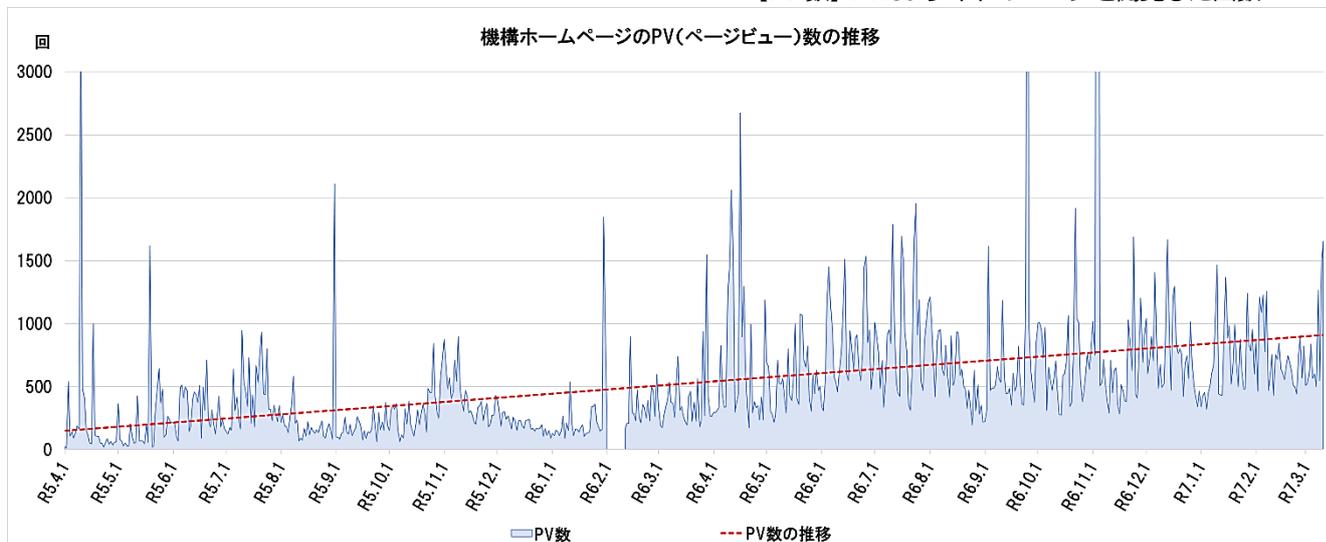


2. 機構ホームページによる広報

(ア) 結果

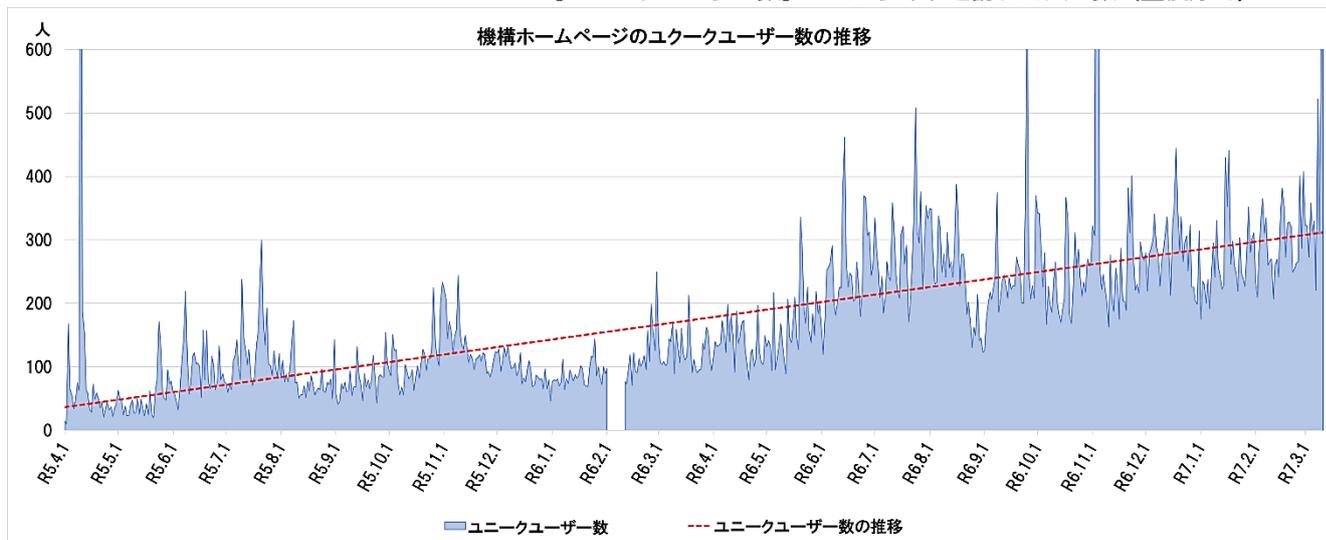
a) 機構ホームページのPV（ページビュー）数累計：**280,284** (R7.3/31 時点)

【PV数】：Webサイトのページを閲覧した回数



b) ユニークユーザー数累計：**93,613** (R7.3/31 時点)

【ユニークユーザー数】：Webサイトを訪れた人の数（重複除く）



3. 機構 Instagram・LINE による広報

(ア) 目的

SNS による周知を行い、フォロワーを増やすことで、より多くの人々が機構の取組みやイベント情報などを知ることができるようにする。また、ワークショップ等開催の際に、リアルタイムに状況を発信することで、保護者やフォロワーに親近感を与え、機構の取組みに賛同してもらえる人を増やす。

(イ) 方法

【Instagram】

a) 投稿

- ・ イベントやワークショップ等の参加者募集投稿に加え、開催報告の投稿も行う。
- ・ 一目見て投稿内容がわかりやすいように見出しやコメントを簡明にする。

b) リール投稿

- ・ 参加者の様子を動画で投稿する。

c) ストーリーズ

- ・ フォロワーに向けてイベントやワークショップ等の様子をリアルタイムで発信する。
- ・ 新規投稿のお知らせを行う。
- ・ そのほか、ボランティアの募集やアンケートなどに使用する。

【LINE】

a) メッセージによるイベント募集

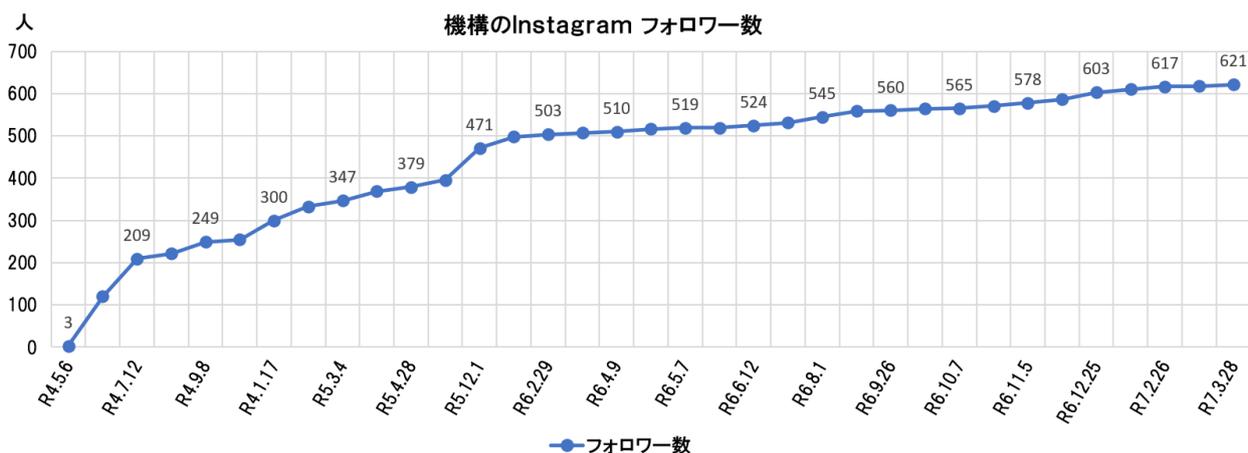
b) 画像を使用した発信

(ウ) 結果

【Instagram】

a) フォロワー数

当初の目標 500 人を達成し順調にフォロワー数が増加している。



残高試算表

令和6年 4月 ~ 令和7年 3月

コード	科 目	前月残高	借 方	貸 方	当月残高	構成比
1101	現 金		90,000	90,000		
1102	小 口 現 金		300,950	300,950		
1130	延岡信用金庫1132998	5,847,672	31,559,125	32,903,456	4,503,341	80.3
1131	延岡信用金庫(歳計外)		10,967,394	10,967,394		
9508	【現金預金】	5,847,672	42,917,469	44,261,800	4,503,341	80.3
1173	前 払 金	77,200			77,200	1.4
9518	(流動資産合計)	5,924,872	42,917,469	44,261,800	4,580,541	81.7
1312	リース資産(有形)	1,340,790		315,480	1,025,310	18.3
9531	(その他の固定資産合計)	1,340,790		315,480	1,025,310	18.3
9532	(固定資産合計)	1,340,790		315,480	1,025,310	18.3
9534	[資産合計]	7,265,662	42,917,469	44,577,280	5,605,851	100.0
2103	未 払 金	4,732,739	4,732,739	2,212,662	2,212,662	39.5
2105	源泉預り金	54,113	244,507	255,377	64,983	1.2
2106	社保預り金	105,906	1,414,606	1,322,570	13,870	0.2
2108	雇用預り金	32,114	32,093	65,705	65,726	1.2
2107	住民税預り金		227,900	251,200	23,300	0.4
2115	リース債務	1,340,790	315,480		1,025,310	18.3
9541	(流動負債合計)	6,265,662	6,967,325	4,107,514	3,405,851	60.8
9550	[負債合計]	6,265,662	6,967,325	4,107,514	3,405,851	60.8
9581	[一般正味財産]	△6,863,461	25,963,873	13,808,535	△19,018,799	△339.3
9591	[正味財産合計]	1,000,000		1,200,000	2,200,000	39.2
9592	[負債及び正味財産合計]	7,265,662	6,967,325	5,307,514	5,605,851	100.0

残高試算表

令和6年 4月 ~ 令和7年 3月

コード	科目	前月残高	借方	貸方	当月残高	構成比
9705	【事業収益】			13,197,063	13,197,063	95.9
4131	受託事業収入			13,197,063	13,197,063	95.9
9709	【雑収益】			568,630	568,630	4.1
4181	受取利息			2,780	2,780	
4182	雑収益			565,850	565,850	4.1
9751	(経常収益計)			13,765,693	13,765,693	100.0
9721	【事業費】		8,543,168	23,952	8,519,216	61.9
4511	旅費交通費		770,553	13,952	756,601	5.5
4512	通信運搬費		354		354	
4514	消耗品費		106,972		106,972	0.8
4516	印刷製本費		211,118		211,118	1.5
4517	燃料費		750		750	
4519	シ、借上料		804,980	10,000	794,980	5.8
4520	保険料		12,272		12,272	0.1
4521	諸謝金		144,950		144,950	1.1
4524	シ、教具教材費		133,804		133,804	1.0
4526	委託費		6,071,264		6,071,264	44.1
4528	広告掲載料		172,920		172,920	1.3
4529	手数料		12,100		12,100	0.1
4532	食糧費		101,131		101,131	0.7
9722	【管理費】		17,420,705	18,890	17,401,815	126.4
4602	給料手当		7,752,443		7,752,443	56.3
4606	カ社会保険料		1,596,983		1,596,983	11.6
4607	カ賞与		3,168,958		3,168,958	23.0
4611	カ費用弁償		124,670		124,670	0.9
4612	旅費交通費		329,591	6,090	323,501	2.4
4613	通信運搬費		208,895		208,895	1.5
4614	消耗什器備品費		134,358		134,358	1.0
4615	消耗品費		119,212	200	119,012	0.9
4616	修繕費		3,960		3,960	
4617	印刷製本費		124,164		124,164	0.9
4618	燃料費		48,590		48,590	0.4
4619	光熱水料費		150,593		150,593	1.1
4620	賃借料		42,596		42,596	0.3
4621	保険料		94,210		94,210	0.7
4622	カ報奨金		361,300	12,600	348,700	2.5
4623	租税公課		81,000		81,000	0.6
4624	カ管理委託料		143,000		143,000	1.0
4625	カ食糧費		40,704		40,704	0.3

残高試算表

令和6年 4月 ~ 令和7年 3月

コード	科 目	前月残高	借 方	貸 方	当月残高	構成比
4626	カ 広 告 料		173,250		173,250	1.3
4627	家 賃		924,000		924,000	6.7
4628	カ 運 営 委 託 料		432,520		432,520	3.1
4629	手 数 料		1,043,228		1,043,228	7.6
4630	減 価 償 却 費		315,480		315,480	2.3
4632	負 担 金		1,000		1,000	
4631	雑 費		6,000		6,000	
9752	(経 常 費 用 計)		25,963,873	42,842	25,921,031	188.3
9781	【評価損益調整前経常増減額】		25,963,873	13,808,535	△12,155,338	△88.3
9753	(当 期 経 常 増 減 額)		25,963,873	13,808,535	△12,155,338	△88.3
9725	【他会計振替前当期一般増減】		25,963,873	13,808,535	△12,155,338	△88.3
9770	(当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額)		25,963,873	13,808,535	△12,155,338	△88.3
9757	(一 般 正 味 財 産 増 減 額)		25,963,873	13,808,535	△12,155,338	△88.3
4100	一般正味財産期首残高	△6,863,461			△6,863,461	△49.9
9759	【一般正味財産期末残高】	△6,863,461	25,963,873	13,808,535	△19,018,799	△138.2
9736	【受取補助金等】		2,212,662	15,513,000	13,300,338	96.6
5602	受取地方公共団体補助金		2,212,662	15,513,000	13,300,338	96.6
9737	【受取負担金】			55,000	55,000	0.4
5621	受 取 負 担 金			55,000	55,000	0.4
9760	(当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額)		2,212,662	15,568,000	13,355,338	97.0
5600	指定正味財産期首残高	7,863,461			7,863,461	57.1
9762	【指定正味財産期末残高】	7,863,461	2,212,662	15,568,000	21,218,799	154.1
9763	[正味財産期末残高]	1,000,000	28,176,535	29,376,535	2,200,000	16.0

一般社団法人延岡こども未来創造機構 01補助事業会計 令和6年度決算 収支計算書

1. 歳入

内容	費目	決算額 A	予算額 B	増減 A-B
STEAMワークショップ参加料(4/13・4/14)	参加料	8,500	0	8,500
延岡こども未来創造機構運営補助金(1回目)	延岡こども未来創造機構運営補助金	7,756,500	7,756,500	0
8/24~8/25 ABCクッキング参加料 57名分	ABCクッキング	219,450		219,450
預金利息	預金利息	484		484
きらきらスポーツフェスタ負担金(延岡市学校教育研究所)	負担金	45,000		45,000
きらきらスポーツフェスタ負担金(延岡市特別支援教育部会)	負担金	10,000	0	10,000
延岡こども未来創造機構運営補助金(2回目)	延岡こども未来創造機構運営補助金	7,756,500	7,756,500	0
預金利息	預金利息	2,291	0	2,291
預金利息	預金利息	5	0	5
受託事業会計から補助事業会計への繰入金(受託事業会計剰余金)	繰入金	3,815,747	4,203,000	△ 387,253
延岡こども未来創造機構運営補助金返還	延岡こども未来創造機構運営補助金	△ 2,212,662	0	△ 2,212,662
歳入計 A		17,401,815	19,716,000	△ 2,314,185

2. 歳出

分類	区分	内容	費目	決算額 A	当初予算額 B	増減 A-B	
(12)	事務局運営費用	傷害保険料	共済費 社会保険料	0	36,000	△ 36,000	
		運営委員会の委員出席謝金	報償費 報償金	70,400	322,000	△ 251,600	
		東京学芸大学 鉄矢教授来延旅費	旅費 費用弁償	72,820	300,000	△ 227,180	
		職員出張費	旅費 普通旅費	323,501	406,000	△ 82,499	
		事務局運営消耗品・印紙代	需用費 消耗品費	114,511	310,000	△ 195,489	
		自動車燃料(ガソリン)	需用費 燃料費	48,590	33,000	15,590	
		チラシ印刷・リーフレット増刷	需用費 印刷製本費	0	50,000	△ 50,000	
		電気料	需用費 光熱水費	132,440	170,000	△ 37,560	
		水道料	需用費 光熱水費	18,153	27,000	△ 8,847	
		修繕料(事務所合カギ)	需用費 修繕料	3,960	0	3,960	
		携帯電話・インターネット通信費	需用費 通信運搬費	101,242	114,000	△ 12,758	
		ポケットWi-Fi通信費	需用費 通信運搬費	92,701	96,000	△ 3,299	
		郵便料	需用費 郵便料	2,612	170,000	△ 167,388	
		Micorsoft365アカウント	需用費	123,684	40,000	83,684	
		LINEアカウント	需用費	66,000	66,000	0	
		CanvaProアカウント	需用費	12,000	12,000	0	
		Acrobatライセンス料(PDF・動画編集)	需用費	79,032	0	79,032	
		インターネットバンキング手数料	需用費	0	16,000	△ 16,000	
		税理士顧問料	役員費 手数料	599,500	593,000	6,500	
		司法書士定款変更手続料	役員費 手数料	0	24,000	△ 24,000	
		経費支払分振込手数料	役員費 手数料	8,670	18,000	△ 9,330	
		廃棄物処理	役員費	68,310	72,000	△ 3,690	
		公式ホームページドメイン・サービス利用料	役員費	3,982	0	3,982	
		クレジットカード年会費	役員費	2,750	0	2,750	
		事務所 エアコン分解洗浄	役員費	33,000	0	33,000	
		その他(残高証明他)	役員費	100	5,000	△ 4,900	
		自動車保険料	委託料 自動車損害賠償保険料	78,340	131,000	△ 52,660	
		事務所火災保険料	委託料 火災保険料	15,870	16,000	△ 130	
		ホームページ管理委託	委託料 管理委託料	143,000	200,000	△ 57,000	
		車両リース	使用料及び賃借料 自動車借上料	315,480	316,000	△ 520	
		パソコンリース	使用料及び賃借料 器具借上料	0	200,000	△ 200,000	
		事務所賃料	使用料及び賃借料 建物借上料	924,000	924,000	0	
		パソコン購入	備品購入費 事務所用器具費	123,296	260,000	△ 136,704	
その他事務局機材	備品購入費	11,062	200,000	△ 188,938			
サンロード街灯負担金	負担金、補助及び交付金 防犯灯灯負担金	6,000	6,000	0			
よみたん自然学校負担金	負担金、補助及び交付金 講演会負担金	1,000	0	1,000			
法人税・消費税等	公課費 消費税および地方消費税	81,000	81,000	0			
登録免許税(登記事項変更)	公課費	0	40,000	△ 40,000			
(13)	人件費	職員(2)(3)(4)(5) 給与	給料 給与	8,535,613	7,251,000	1,284,613	
(14)		職員(2)(3) 時間外手当	給料 給与	174,142	844,000	△ 669,858	
(15)		職員(4)(5) 通勤手当	給料 給与	109,174	183,000	△ 73,826	
		職員(2)(3)(4)(5) 期末勤務手当	職員手当 期末勤務手当	2,102,472	1,451,000	651,472	
		職員(1)(2)(3)(4)(5) 社会保険料	共済費 社会保険料	1,450,137	1,531,000	△ 80,863	
		職員(2)(3)(4)(5) 労働保険料	共済費 社会保険料	121,846	137,000	△ 15,154	
	職員(1)(2) 中小企業退職金共済掛金	役員費 手数料	25,000	180,000	△ 155,000		
	職員(2)(3)(4) 健康診断費	役員費	33,000	33,000	0		
	(1)(2)(3)昇給及び給与ベースアップ	-	0	930,000	△ 930,000		
(17)	自己肯定感を育むための親子の学び講演会等(中桐万里子氏・国境なき医師団)	講演会等 謝金(講師等)	報償費 報償金	220,000	220,000	0	
		講演会等 謝金(司会)	報償費 報償金	33,000	120,000	△ 87,000	
		講演会等 謝金(子育てサポーター)	報償費 報償金	9,000	100,000	△ 91,000	
		講演会等 費用弁償	旅費 費用弁償	51,850	235,000	△ 183,150	
		講演会等 消耗品	需用費 消耗品費	0	20,000	△ 20,000	
		講演会等 チラシ印刷	需用費 印刷製本費	94,451	40,000	54,451	
		講演会等 会場使用料	使用料及び賃借料 会場借上料	0	40,000	△ 40,000	
		講演会等 チラシ送料	役員費 通信運搬費	12,060	0	12,060	
(18)	自主事業各種ワークショップ等(デザインスクール・ABC他)	講演会等 音響・映像操作	役員費 手数料	0	61,000	△ 61,000	
		講演会等 新聞広告	役員費 広告料	173,250	132,000	41,250	
		各種ワークショップ等講師謝金	報償費 報償金	16,300	80,000	△ 63,700	
		各種ワークショップ等費用弁償	旅費 費用弁償	0	150,000	△ 150,000	
		各種ワークショップ等消耗品	需用費 消耗品費	4,501	20,000	△ 15,499	
		各種ワークショップ等食糧費	需用費 食糧費	40,704	0	40,704	
		各種ワークショップ等チラシ印刷	需用費 印刷製本費	29,713	40,000	△ 10,287	
		各種ワークショップ等委託	委託料 イベント運営委託料	217,360	0	217,360	
(19)	自主事業・受託事業サポート等のための地域人材育成講座	各種ワークショップ等会場使用料	使用料及び賃借料 会場借上料	41,996	120,000	△ 78,004	
		各種ワークショップ等駐車場使用料	使用料及び賃借料 駐車場借上料	600	0	600	
		地域人材育成講座講師謝金	報償費 報償金	0	40,000	△ 40,000	
		地域人材育成講座構築連携委託	委託料 イベント運営委託料	215,160	406,000	△ 190,840	
		地域人材育成講座消耗品	需用費 消耗品費	0	20,000	△ 20,000	
		地域人材育成講座修了証郵送	役員費 通信運搬費	280	0	280	
地域人材育成講座会場使用料	使用料及び賃借料 会場借上料	0	18,000	△ 18,000			
地域人材育成講座・フカソゼミアカウトル	役員費 手数料	13,200	60,000	△ 46,800			
補助金合計	-	-	-	17,401,815	-	19,716,000	△ 2,314,185

上記のとおり相違ありません。

令和7年3月31日 一般社団法人延岡こども未来創造機構 代表理事 読谷山 洋司

一般社団法人延岡こども未来創造機構 02受託事業会計 令和6年度決算 収支計算書

NO	事業名	歳入A				歳出B				差額 C (A-B)		
-	前年度繰越金	歳入	繰越金	繰越金	1,000,000	前年度繰越金						
					753,060	東京学芸大学冬季学生インターンシップ・ワークショップ開催業務						
					1,322,475	STEAMラボ開催業務						
			歳入計 A		3,075,535		歳出計 B		0		3,075,535	
(3)	JFAこころのプロジェクト「夢の教室」	歳入	受託事業収入	夢の教室	1,435,511	夢の教室開催業務						
			歳入計 A		1,435,511		歳出計 B		1,272,283		163,228	
(4)	東京学芸大学こども未来研究所 STEAM等ワークショップ	歳入 STEAM	雑入	STEAMワークショップ参加料	19,000	STEAMワークショップ参加料						
			雑入	STEAM自主ワークショップ	18,500	8/20・8/22・8/26 STEAM自主ワークショップ参加料(37名分)						
			受託事業収入	STEAMワークショップ委託料	1,643,983	STEAMワークショップ委託料						
			歳入計 A		1,681,483		歳出計 B		1,596,647		84,836	
				歳入 ゆるスポ	受託事業収入	ゆるスポDeCo開催業務	1,196,448	ゆるスポDeCo開催業務				
歳入計 A		1,196,448			歳出計 B		1,176,093		20,355			
	歳入 STEAMラボ	受託事業収入	STEAMラボ	0	STEAMラボ委託料							
歳入計 A		0		歳出計 B		1,273,319		▲ 1,273,319				

NO	事業名	歳入A				歳出B				差額 C (A-B)		
		種別	内容	金額	内容	種別	金額	内容				
(5)	ENGLISHCAMP	歳入	雑入	ENGLISH CAMP参加料	92,500	ENGLISH CAMP参加料 37名分	歳出	報償費	報償金	18,000	イングリッシュキャンプ ボランティア謝金	
			雑入	ENGLISH CAMP参加料	2,500	ENGLISH CAMP参加料 1名分		旅費	費用弁償	26,109	イングリッシュキャンプ ボランティア旅費	
			受託事業収入	イングリッシュキャンプ	595,958	イングリッシュキャンプ委託料		需用費	消耗品費	19,167	イングリッシュキャンプ 消耗品	
								需用費	食糧費	15,657	イングリッシュキャンプ弁当代他	
								需用費	印刷製本費	32,263	チラシ印刷(ENGLISH DAY CAMP)	
								役務費	傷害保険料	3,392	傷害保険料(11/16 イングリッシュキャンプ プレイベント)	
								役務費	傷害保険料	3,710	傷害保険料(11/30 イングリッシュキャンプ)	
								使用料及び賃借料	建物借上料	70,180	11/30 イングリッシュキャンプ ケビン・台付テント利用料	
								繰出金	繰出金	309,070	人件費<<補助事業会計への繰出金>>	
					歳入計 A			690,958		歳出計 B	497,548	
(6)	プレーパーク	歳入				歳出				0		
			歳入計 A	0			歳出計 B	0		0		
(7)	自然体験活動	歳入	雑入	自然体験	10,000	9/7 自然体験参加料 10名分	歳出	報償費	報償金	18,000	自然体験 学生ワークショップ謝金 12名分	
			受託事業収入	自然体験開催業務	499,653	自然体験開催業務		需要費	消耗品費	9,011	虫よけスプレー他(自然体験ワークショップ)	
								需要費	食糧費	10,450	9/7自然体験 お弁当・お茶代等	
								需要費	印刷製本費	25,530	チラシ印刷(自然体験)	
								役務費	傷害保険料	2,520	傷害保険料(自然体験ワークショップ)	
								委託料	イベント運営委託料	20,000	自然体験トレッキングガイド料 2名分	
								使用料及び賃借料	会場借上料	5,740	9/7 自然体験 コーヒー(休憩)・テントサイト	
								繰出金	繰出金	311,064	人件費<<補助事業会計への繰出金>>	
					歳入計 A	509,653			歳出計 B	402,315		107,338
			(8)	東京学芸大学インターンシップ学生ワークショップ	歳入(秋季)	受託事業収入		インターンシップ・ワークショップ	912,065	東京学芸大学秋季学生インターンシップ・ワークショップ活動開催業務	歳出(秋季)	旅費
							旅費	費用弁償	94,060	秋季学生インターンシップ航空代(4名分)		
							旅費	費用弁償	32,290	秋季学生インターンシップ航空代		
							需要費	食糧費	9,712	学生インターンシップ 講師来賓土産・飲料他		
							需要費	消耗品費	30,000	学生インターンシップ 土産(チキ南蛮長ボロシヤツ)		
							需用費	燃料費	750	燃料費(正当科目より支出のため)		
							役務費	手数料	1,760	振込手数料(学生インターンシップ)		
							使用料及び賃借料	会場借上料	74,370	学生インターンシップ会場使用料(むかばき)		
							使用料及び賃借料	建物借上料	190,000	学生インターンシップ宿舍借上に係る費用		
							繰出金	繰出金	311,064	人件費<<補助事業会計への繰出金>>		
		歳入計 A			912,065		歳出計 B	811,906		100,159		
歳入(冬季)	受託事業収入	インターンシップ・ワークショップ			0	東京学芸大学冬季学生インターンシップ・ワークショップ開催業務	歳入(冬季)	報償費	報償金	16,500	プログラミング体験会 講師謝金(佐藤一輝氏)	
								旅費	費用弁償	110,850	冬季学生インターンシップ旅費 6名分	
								旅費	費用弁償	282,770	冬季学生インターンシップ航空代 6名	
								需用費	食糧費	13,503	学生インターンシップ 食糧費	
								需用費	消耗品費	16,656	学生インターンシップ カートホルダー、プログラミング体験会消耗品	
								使用料及び賃借料	建物借上料	351,400	学生インターンシップ宿舍借上に係る費用	
								繰出金	繰出金	311,064	人件費<<補助事業会計への繰出金>>	
					歳入計 A	0			歳出計 B	1,102,743		▲ 1,102,743
	(9)	プログラミング教室			歳入					歳出		
				歳入計 A	0				歳出計 B	0		0

一般社団法人延岡こども未来創造機構 02受託事業会計 令和6年度決算 収支計算書

NO	事業名	歳入A				歳出B				差額 C (A-B)	
		雑入	検定料			役務費	通信運搬費				
(10)	高校生対象論理コミュニケーション	歳入	雑入	検定料	13,400	高校生向け論理コミュニケーション検定料	歳出	役務費	通信運搬費	84	郵便料(正当科目より支出のため)
			受託事業収入	論理コミュニケーション委託料	747,780	高校生向け論理コミュニケーション委託料		役務費	手数料	880	振込手数料(論理コミュニケーション開催業務)
								委託料	イベント運営委託料	147,245	「論理コミュニケーション」授業開催業務
								需要費	印刷製本費	56,436	チラシ印刷(論理コミュニケーション)
										463,605	人件費<<補助事業会計への繰出金>>
		歳入計 A		761,180		歳出計 B		668,250		92,930	
(11)	英語モチベーションアッププログラム	歳入	受託事業収入	英語モチベーションアッププログラム委託料	3,612,004	英語モチベーションアッププログラム委託料	歳出	旅費	費用弁償	63,420	英語モチベーション(神原 諒)
			雑入	参加料	156,000	英語モチベーションアッププログラム参加料6,000円×26人		需要費	消耗品費	15,200	英語フォローアップ ノート・ブロック他
			雑入	英語フォローアップ参加料	26,000	英語フォローアップ参加料 12名分		需要費	食糧費	19,963	講師土産・飲料等
								需要費	印刷製本費	18,162	チラシ印刷(英語モチベーションアップ)
								役務費	手数料	880	振込手数料(英語モチベーションアッププログラム)
								委託料	イベント運営委託料	2,407,960	英語モチベーションアッププログラム開催業務
								繰出金	繰出金	463,605	人件費<<補助事業会計への繰出金>>
		歳入計 A		3,794,004		歳出計 B		2,989,190		804,814	
(12)	SSHプログラム	歳入	受託事業収入	SSHプログラム開催業務	436,205	SSHプログラム開催業務	歳出	報償費	報償金	12,600	延岡高校SSH講師料(西・新本氏)
								旅費	普通旅費	3,680	SSH島野浦下見(井狩・高橋)
								役務費	手数料	1,760	振込手数料(延岡高校SSH島浦ガイド料)
								役務費	通信運搬費	270	SSH アンケート・礼状郵送(島野浦NPO法人)
								委託料	イベント運営委託料	143,000	延岡高校SSHプログラムノベスタ委託料
								委託料	イベント運営委託料	60,000	10/16 延岡高校SSH 島野浦トレッキングガイド料
								使用料及び賃借料	会場借上料	19,300	延岡高校SSHプログラム会場費
								使用料及び賃借料	船舶借上料	31,600	延岡高校SSHプログラム高速艇使用料
								使用料及び賃借料	駐車場借上料	840	SSH駐車場料
								繰出金	繰出金	120,000	人件費<<補助事業会計への繰出金>>
					歳入計 A			436,205		歳出計 B	
(13)	旭化成野口遼顕彰会水力発電ワークショップ	歳入	受託事業収入	水力発電ワークショップ開催業務	41,921	水力発電ワークショップ開催業務	歳出	役務費	手数料	880	振込手数料(水力発電キット)
								備品購入費	教具教材費	93,544	水力発電キット(ラーニング#1241R水力)
								繰出金	繰出金	18,000	人件費<<補助事業会計への繰出金>>
					歳入計 A			41,921		歳出計 B	
合計		歳入合計 A		14,534,963		歳出合計 B		12,295,768		2,239,195	

■補助事業会計への繰出金

新年度始動必要経費 D		次年度繰越金 E	差額C(A-B)	CとEの差額G (C-E)	歳出人件費合計 H	補助事業会計への繰出金 I (G+H)
人件費(給料)3月分4/15	660,000	≒2200000	2,239,195	39,195	3,776,552	3,815,747
人件費(給与ベースアップ分)R6当初予算内で補填	900,000					
社会保険料(事業者負担)3月分4/30	137,408					
雇用保険料(事業者負担)	4,152					
退職金共済掛金	0					
自動車リース(3月分4/6)	26,290					
新規採用職員用PC・備品	280,000					
モバイルWi-Fi	7,131					
電気料金	11,000					
家賃+水道料金+振込手数料(4月分4/30)	80,000					
ワイワイ料金	9,000					
廃棄物処理	5,500					
LINEアカウント料(4/1)	5,500					
Microsoft365アカウント料	39,600					

監査報告書

令和6年度の一般社団法人延岡こども未来創造機構の監査を行った結果、決算書について出納簿、領収書及び預金通帳等の関係書類、帳票が全て適正に処理されていることを認めます。

令和7年4月18日

監事

吉岡

修



第3号議案 令和7年度事業計画（案）

（補助事業の部）

○事務局運営 **事務局**

関係機関などとの連携のもと、効率的な事務局運営を行う。

延岡市や教育機関、地域団体など関係機関と連携・情報共有を行い、子育て・教育分野において効果的な自主事業の企画・立案・運営を行うとともに、受託事業の運営を行うなど、延岡ならではの生きる力を育む取組みを進める。

○運営委員会開催 **事務局**

当委員会は、旧検討委員を中心にさまざまな知見を持つ人材や自地域内外の人材で構成される。多様な人材で構成されることにより、延岡市が潜在的に抱えている教育的課題や子育てのニーズを多面的に捉え、課題解決に向け多様な教育的アプローチを図ることを目的とする。

○自己肯定感を育むための親子の学び講演会等の開催 **共育**

（対象：乳幼児～大学生、保護者、地域団体など）

講演会については、当機構の存在や取組みを市内外の多くの人に伝えていく機会として、その時のニーズに応じた内容のものを、年1回程度継続して開催していく。

○自主事業・受託事業をサポートいただくための人材育成講座等の開催 **共育**

（対象：保護者、地域団体など）

これから地域での教育活動やボランティアを始める方、既に地域で活動されている方でさらに活動を充実・発展させたい方等を対象に、2つのサポーター育成講座を開催する。

■こどもサポーター講座 ～ NPO 法人東京学芸大こども未来研究所

既に地域で教育支援活動を実践している講師から、持続的な教育支援活動を行うために重要な考え方や方法を実践的な学びを通して身につけるプログラムを実施する。

■ブカツゼミ ～ 学校法人 三幸学園

学校法人三幸学園東京リゾート＆スポーツ専門学校が実施した「リカレント教育総合推進プロジェクト 部活動指導員養成事業」によって作成されたeラーニングプログラムを実施する。

○その他各種ワークショップ等の開催 **遊びと学び** **共育** **体験**

（対象：乳幼児～大学生、保護者、地域団体など）

これまで、関係団体等と連携して実施してきた事業の経験を活かし、STEAM や様々な非認知能力を育むワークショップなどを開催するとともに、教育・子育てに関係する様々な課題を解決するための試行的な取組みを行うなど、延岡市ならではの人間力を育む事業を展開していく。

今年度は、機構職員を講師とした「自主ワークショップ」、慶應義塾大学 SFC 研究所との連携による「論理コミュニケーション」「デザインスクール」、NPO 法人ひむか感動体験ワールドとの連携による「延岡高校 SSH 事業フィールドワーク(Natural コース)」、子どもたちの主体性や協調性・社会性を育む「プレーパーク」、これからの時代を生きることも達に必要な『プログラミング的思考』を育成するための「プログラミング教室」の開催を予定している。

(受託事業の部)

【遊びと学びプロジェクト】

○東京学芸大学との連携による STEAM 等ワークショップ

(対象：小学生、中学生、高校生、大学生、保護者、地域の方、教育関係者など)

NPO 法人 東京学芸大こども未来研究所・東京学芸大学教育イノベーションセンターと連携し、「STEAM ワークショップ」「ゆるスポ DeCo 教室」「STEAM ラボ」等各種ワークショップを開催する。教育について専門的に研究を行っている講師の招聘等を行い、参加した延岡の児童・生徒など様々な人達が最先端の内容に触れることができるようにする。

○JFA こころのプロジェクト「夢の教室」(対象：中学 2 年生)

JFA (公益財団法人日本サッカー協会) と連携し、様々な競技の現役/OB/OG 等のスポーツ選手などを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さ」「仲間と協力することの大切さ」などを夢先生の体験談を通じて子どもたちに伝える『夢の教室』を開催する。

【共育プロジェクト】

○グローバルコミュニケーション (対象：中学生～高校生)

社会においては、様々な国や地域の人と協働することがますます必要とされてきており、文化や地域の異なる相手との価値観・コミュニケーションの違いなどについて理解を深め、その中で自身の力を発揮し、チームワーク良く物事を成し遂げる力を養うことが重要となっている。昨年度に引き続き、英語モチベーションアッププログラムを開催しコミュニケーションや英語を含めた言語力の重要性に自ら気づき、英語等の語学を勉強することが自分の進路の選択肢を広げることになることを学ぶ。さらに学びを深めたい参加者を対象にフォローアッププログラムを開催し、英語学習や英検、受験等、自分の進路に対して前向きにチャレンジできるマインドセットを育む。

また、今年度は HI 合同会社の平原依文氏をお招きし、様々な国のリアルな声から異文化について理解しグローバルな人材を育成する「Nobeoka Global Academy-さまざまな国に延岡で留学-」を夏休み期間中に開催する他、昨年に引き続き国境なき医師団によるワークショップ等を実施予定。

○東京学芸大学 学生インターンシップ事業 (対象：小中学校)

東京学芸大学と延岡市・延岡市教育委員会との連携協定に基づき、大学の休業期間を活用し、東京学芸大学の学生に「学生インターンシップ事業」として、大学の授業で学んだことを実際の教育現場で実践する機会を提供する。延岡市としては、学生に延岡を知ってもらい、興味を持ってもらうことで、機構に携わる人材や学校教員の確保などにつなげることと併せて、子どもたちには多様な人間と触れ合うことによる社会的能力の向上につなげる。

参加学生には、事業期間中に小学生等を対象としたワークショップの運営も行っていただくとともに、秋季は、教育委員会と連携して開催している「教育大学リーグ」において、教職員を目指している宮崎大学や南九州大学、九州医療科学大学の学生との合同でのインターンシップ実施や連携・交流、最終日に教育の魅力を発信するミーティングを行う予定としている。

【体験プロジェクト】

○English Camp（対象：小学生～高校生）

地域のボランティアサークル「わかあゆ」と連携し、須美江家族旅行村を中心に外国語を用いた体験活動などを行う。県北の ALT や外国青年、地域の大学生ボランティアなど異年齢で構成されたグループで様々な活動を実施。「英語が通じた」「外国の人とやりとりができた」という実体験を一人でも多くのこどもたちに経験してもらうため、ネイティブの英語に触れる機会として「English Day キャンプ ～NOBEOKA 世界村～」を開催する。

○自然体験活動（対象：小学生～高校生、子育て世帯・保護者など）

環境省の快水浴場百選に選ばれた須美江海水浴場や県内唯一の有人島・島浦島など、延岡ならではの自然環境を活かしアウトドア体験をすることで、ふるさとに愛着と誇りを持つ心を育む機会とする。地域の団体と連携し、単に体験するだけではなく、課題を見つけて考えるような仕掛けを設けるなど、学びを深堀する自然体験活動プログラムとする。

【第3号議案】 令和7年度事業予算（案）

（補助事業の部）

○延岡こども未来創造機構事務局運営事業

【収入の部】

（単位：千円）

科目	予算額	備考
市補助金	19,895	延岡こども未来創造機構運営補助金
繰入金	4,459	※受託事業会計からの繰入金
収入合計	24,354	

【支出の部】

（単位：千円）

科目	予算額	備考
事務費	給料	10,891 事務局職員4人分の給与、時間外手当
	職員手当	3,579 事務局職員4人分の期末勤勉手当
	共済費	2,617 健康保険料、厚生年金保険料、健康診断、傷害保険料等
	報償費	322 運営委員会委員出席謝金
	旅費	706 事務局職員3人分の出張費、通勤手当
	消耗品費	244 事務用品
	燃料費	33 車両1台12ヶ月分
	印刷製本費	50 総会資料、チラシ他
	光熱水費	174 電気代、水道代
	通信運搬費	380 携帯電話、インターネット、インターネットバンキング、郵送料
	手数料	1,069 電話契約、税理士顧問料、司法書士手続料、社労士顧問料、廃棄物処理等
	自動車保険料	131 自動車保険料
	火災保険料	16 事務所火災保険
	委託料	200 ホームページ制作
	使用料及び賃借料	1,440 自動車借上料、事務所賃料等
備品購入費	460 事務所用器具	
街灯負担金	6 街灯負担金	
小計	22,318	
公課費	121 法人税等、登録免許税（登記事項変更）	
講演会等	報償費	340 講師、コーディネーター謝金
	旅費	210 講師旅費
	消耗品費	20 消耗品
	印刷製本費	40 チラシ等
	会場借上料	40 会場使用料
	広告費	132 新聞広告費
ワークショップ	報償費	80 講師謝金
	旅費	150
	消耗品費	30 消耗品
	燃料費	0 学校状況の聞き取り等
	印刷製本費	84 チラシ等
	委託料	200 運営委託
会場借上料	85	
地域人材育成講座	委託料	406 地域人材育成講座構築連携委託
	消耗品費	20 地域人材育成講座消耗品費
	会場借上料	18 地域人材育成講座会場使用料
	手数料	60 地域人材育成講座アカウント料
支出合計	24,354	

第3号議案 令和7年度事業予算（案）

（受託事業の部）

【収入の部】

（単位：千円）

科目	予算額	備考
市委託料	13,895	
論理コミュニケーション検定料	0	
収入合計	13,895	

【支出の部】

（単位：千円）

科目	現計	内容
東京学芸大こども未来研究所 STEAM等ワークショップ	報償金	528 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ講師謝金
		56 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ講師謝金
	費用弁償	660 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ講師旅費
	消耗品費	110 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ消耗品
	印刷製本費	132 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップチラシ印刷
	広告料	400 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ広告料
	会場使用料	229 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップ会場使用料
	教員教材費	88 東京学芸大学こども未来研究所STEAM等ワークショップパーツパー
		1,516 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		112 一般管理費
JFAこころのプロジェクト 「夢の教室」	イベント開催消耗品	4 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催消耗品
	イベント開催委託料	1,140 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催委託料
		379 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		46 一般管理費
グローバルコミュニケーション	消耗品費	22 グローバルコミュニケーション消耗品
	印刷製本費	88 グローバルコミュニケーションチラシ印刷
	委託料	2,900 グローバルコミュニケーション開催委託（英語）
		1,100 グローバルコミュニケーション開催委託（アカデミー）
	会場使用料	60 グローバルコミュニケーション会場使用料
		758 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		148 一般管理費
東京学芸大学 学生インターシップ	報償金	44 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップ講師謝金
		20 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップボランティア謝金
	普通旅費	330 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップ旅費
	消耗品費	22 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップ消耗品
	印刷製本費	44 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップチラシ印刷
	建物借上料	330 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップ宿舍使用料
	会場借上料	81 東京学芸大学インターシップ学生ワークショップ宿舍使用料
		1,137 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		61 一般管理費
ENGLISH CAMP	報償金	66 ENGLISHCAMPボランティアスタッフ謝金
	費用弁償	22 ENGLISHCAMPボランティアスタッフ旅費
	消耗品費	22 ENGLISHCAMP消耗品
	印刷製本費	44 ENGLISHCAMPチラシ印刷料
	派遣委託料	- ENGLISHCAMP ALT派遣委託料
	保険料	7 ENGLISHCAMP活動保険
	会場借上料	83 ENGLISHCAMP会場使用料
		379 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		19 一般管理費
自然体験活動	消耗品費	22 自然体験活動消耗品
	印刷製本費	44 自然体験活動チラシ印刷
	イベント運営委託料	242 自然体験活動開催委託
		379 ①（マネージャー）②（業務担当）人件費
		21 一般管理費
支出合計	13,895	

御参考資料

一般社団法人延岡こども未来創造機構
定 款

定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 当法人は、一般社団法人延岡こども未来創造機構と称する。

(目 的)

第2条 当法人は、「これからの未来を生きる子どもたちが、本来持っている創造性やワクワクする感覚を輝かし、自分らしく生きられる社会の実現」を目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 意欲や創造力などを育成する、遊びや学びの場の創出に関する事業
- (2) 多様な世代や多様な人材による学び合い、学びの共創に関する事業
- (3) 豊富な地域資源を活かした多様な体験に関する事業
- (4) こどもの居場所づくりに関する事業
- (5) その他前各号の目的を達成するため必要な事業

(主たる事務所の所在地)

第3条 当法人は、主たる事務所を宮崎県延岡市栄町5番地1に置く。

(公告方法)

第4条 当法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(機 関)

第5条 当法人は、当法人の機関として社員総会及び理事以外に監事を置く。

第2章 社 員

(入 社)

第6条 当法人の目的に賛同し、入社した者を社員とする。

- 2 社員となるためには、当法人所定の様式による申込みをし、代表理事の承認を得なければならない。

(社員名簿)

第7条 当法人は、社員の氏名及び住所を記載した社員名簿を作成し、当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

- 2 当法人の社員に対する通知又は催告は、社員名簿に記載した住所又は社員が当法人に通知した居所にあてて行うものとする。

(退 社)

第8条 社員は、次に掲げる事由によって資格を喪失する。

- (1) 退社したとき。ただし、退社の申し出は、1か月前にするものとするが、やむを得ない事由があるときは、いつでも退社することができる。
- (2) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は解散したとき。
- (3) 総社員の同意があったとき。
- (4) 除名されたとき。

2 当法人の社員が、当法人の名誉を毀損し、若しくは当法人の目的に反する行為をし、又は社員としての義務に違反するなどの除名すべき正当な事由があるときは、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）第49条第2項に定める社員総会の決議により、その社員を除名することができる。

第3章 社員総会

(構 成)

第9条 社員総会は、全ての社員をもって構成する。

(権 限)

第10条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 社員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定める事項

(招 集)

第11条 当法人の定時社員総会は、毎事業年度の末日の翌日から2ヶ月以内に召集し、臨時社員総会は、必要に応じて召集する。

2 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除くほか、理事の過半数を持って決定し、代表理事がこれを召集する。代表理事に事故若しくは支障があるときは、あらかじめ定めた順位により他の理事がこれを召集する。

3 社員総会を召集するには、会日より5日前までに、社員に対して召集通知を発するものとする。ただし、召集通知は、書面であることを要しない。

(招集手続の省略)

第12条 社員総会は、社員全員の同意があるときは、招集手続を経ずに開催することができる。

(議決権)

第13条 各社員は、各1個の議決権を有する。

(議長)

第14条 社員総会の議長は、代表理事がこれに当たる。代表理事に事故若しくは支障があるときは、あらかじめ定めた順位により、他の理事がこれに代わる。

(決議の方法)

第15条 社員総会の決議は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもってこれを行う。

(議決権の代理行使)

第16条 社員は、当法人の社員又は親族を代理人として、議決権を行使することができる。ただし、この場合には、社員総会ごとに代理権を証する書面を提出しなければならない。

(社員総会議事録)

第17条 社員総会の議事については、法令に定める事項を記載した議事録を作成し、議事録作成者が署名又は記名押印して社員総会の日から10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

第4章 役員

(員数)

第18条 当法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 2名以上
- (2) 監事 1名

(選任等)

第19条 理事及び監事は、社員総会の決議によって各々選任する。

2 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は三親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

3 他の同一の団体(公益法人を除く)の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者である理事の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

(任期)

第20条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事及び監事は、辞任又は任期満了後において、定員を欠くに至った場合には、新たに選任された者が就任するまでは、その職務を行う権利義務を有する。

(代表理事)

第21条 当法人は、代表理事1名を置き、理事の互選により定める。

2 代表理事は、当法人を代表し、当法人の業務を統括する。

(監事)

第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

(役員報酬)

第23条 役員報酬等は、社員総会の決議をもって定める。

(取引の制限)

第24条 理事が、次に掲げる取引をしようとする場合には、社員総会において、その取引について重要な事実を開示し、その承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにする当法人の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにする当法人との取引

(3) 当法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における当法人とその理事との利益が相反する取引

(責任の一部免除)

第25条 当法人は、役員が法人法第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、社員総会の特別決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

第5章 基金

(基金の拠出)

第26条 当法人は、社員又は第三者に対し、基金の拠出を求めることができるものとする。

(基金の募集)

第 27 条 基金の募集、割当て及び振込み等の手続きについては、理事が決定するものとする。

(基金の拠出者の権利)

第 28 条 拠出された基金は、基金拠出者と合意した期日までは返還しない。

(基金の返還の手続き)

第 29 条 基金の拠出者に対する返還は、返還する基金の総額について定時社員総会における決議を経た後、理事が決定したところに従って行う。

第 6 章 計 算

(事業年度)

第 30 条 当法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

(事業計画及び収支予算)

第 31 条 当法人の事業計画及び収支予算については、毎事業年度開始日の前日までに代表理事が作成し、直近の社員総会において承認を得るものとする。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しない時は、代表理事は、社員総会の議決に基づき、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入及び支出をすることができる。

3 前項の収入及び支出は、新たに成立した予算の収入及び支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第 32 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、定時社員総会に提出し、第 1 号及び第 2 号の書類についてはその内容を報告し、第 3 号から第 6 号までの書類については承認を受けなければならない。

- 1 事業報告
- 2 事業報告の附属明細書
- 3 貸借対照表
- 4 損益計算書（正味財産増減計算書）
- 5 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- 6 財産目録

(剰余金の分配の禁止)

第 33 条 当法人の剰余金は、これを一切分配してはならない。

(剰余財産の帰属)

第34条 当法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、これを延岡市に贈与するものとする。

第7章 附 則

(設立時の社員の氏名及び住所)

第35条 当法人の設立時の社員の氏名及び住所は、次のとおりである。

宮崎県延岡市 [REDACTED]

讀谷山 洋司

東京都調布市 [REDACTED]

鉄矢 悦朗

宮崎県延岡市 [REDACTED]

小川 靖子

宮崎県延岡市 [REDACTED]

田村 智彰

宮崎県延岡市 [REDACTED]

高森 賢一

宮崎県東臼杵郡門川町 [REDACTED]

水永 正憲

宮崎県延岡市 [REDACTED]

阿部 絵里香

(設立時の役員)

第36条 当法人の設立時理事及び設立時監事は、次のとおりとする。

設立時理事 讀谷山 洋司

設立時理事 鉄矢 悦朗

設立時理事 小川 靖子

設立時理事 田村 智彰

設立時理事 高森 賢一

設立時理事 水永 正憲

設立時監事 三浦 健

(設立時の代表理事)

第37条 当法人の設立時代代表理事は、次のとおりとする。

宮崎県延岡市 [REDACTED]

設立時代代表理事 讀谷山 洋司

(最初の事業年度)

第38条 当法人の最初の事業年度は、当法人設立の日から令和4年3月31日までとする。

(定款に定めのない事項)

第 39 条 この定款に定めのない事項については、すべて法人法その他の法令の定めるところによる。

以上、一般社団法人延岡こども未来創造機構を設立のため、設立時社員讀谷山洋司他 6 名の定款作成代理人である司法書士山之内隆樹は、電磁的記録である本定款を作成し、電子署名する。

令和 4 年 3 月 2 9 日

設立時社員	宮崎県延岡市	[REDACTED]	讀谷山 洋司
設立時社員	東京都調布市	[REDACTED]	鉄矢 悦朗
設立時社員	宮崎県延岡市	[REDACTED]	小川 靖子
設立時社員	宮崎県延岡市	[REDACTED]	田村 智彰
設立時社員	宮崎県延岡市	[REDACTED]	高森 賢一
設立時社員	宮崎県東臼杵郡門川町	[REDACTED]	水永 正憲
設立時社員	宮崎県延岡市	[REDACTED]	阿部 絵里香

上記設立時社員 7 名の定款作成代理人

宮崎県延岡市南町二丁目 1 番 2 5

司法書士 山之内 隆樹